

橋立美やげ



025585-000-0

82-40

橋立美やげ(大日本三景)

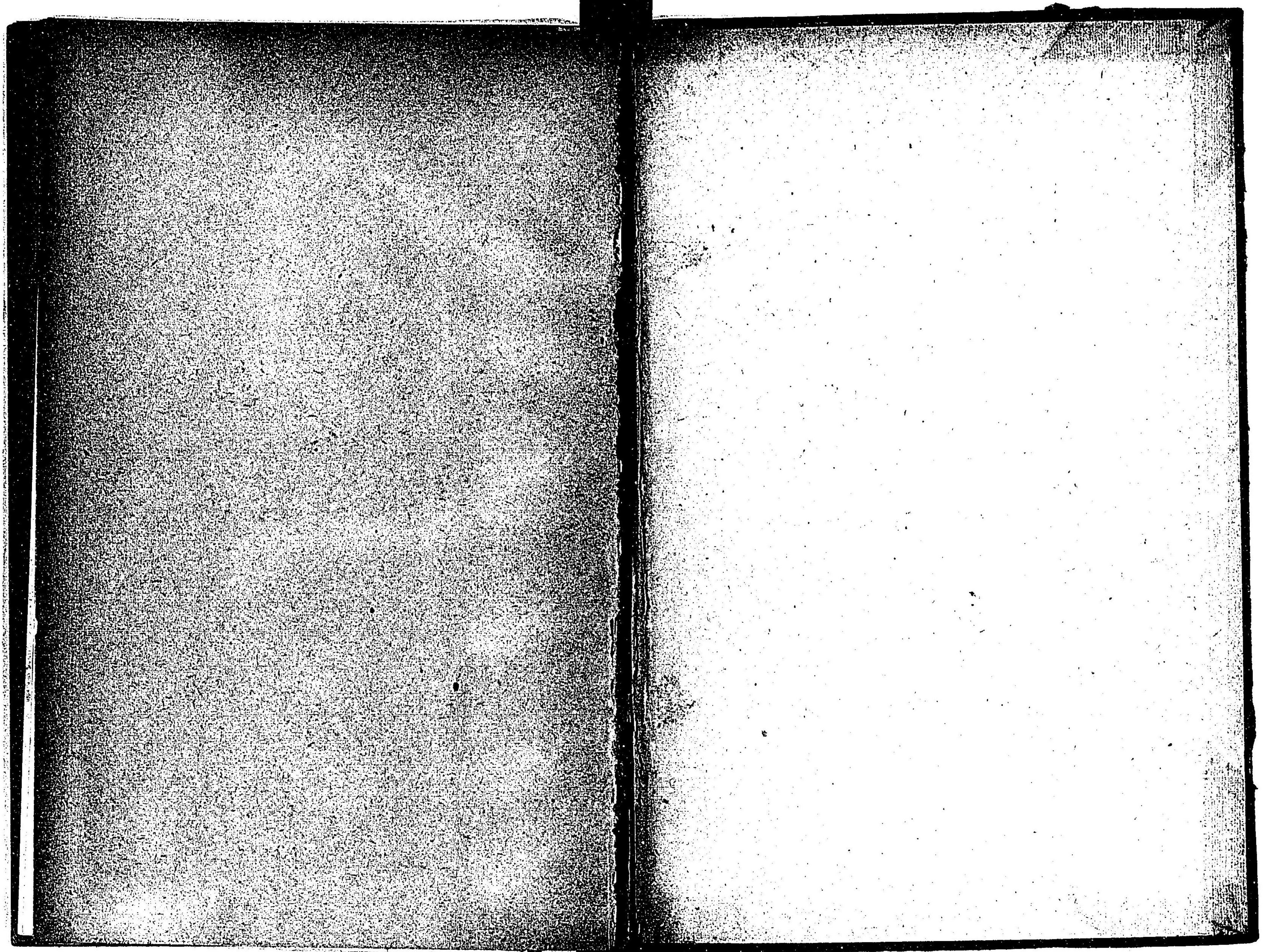
沢田 和平/編

M3 1

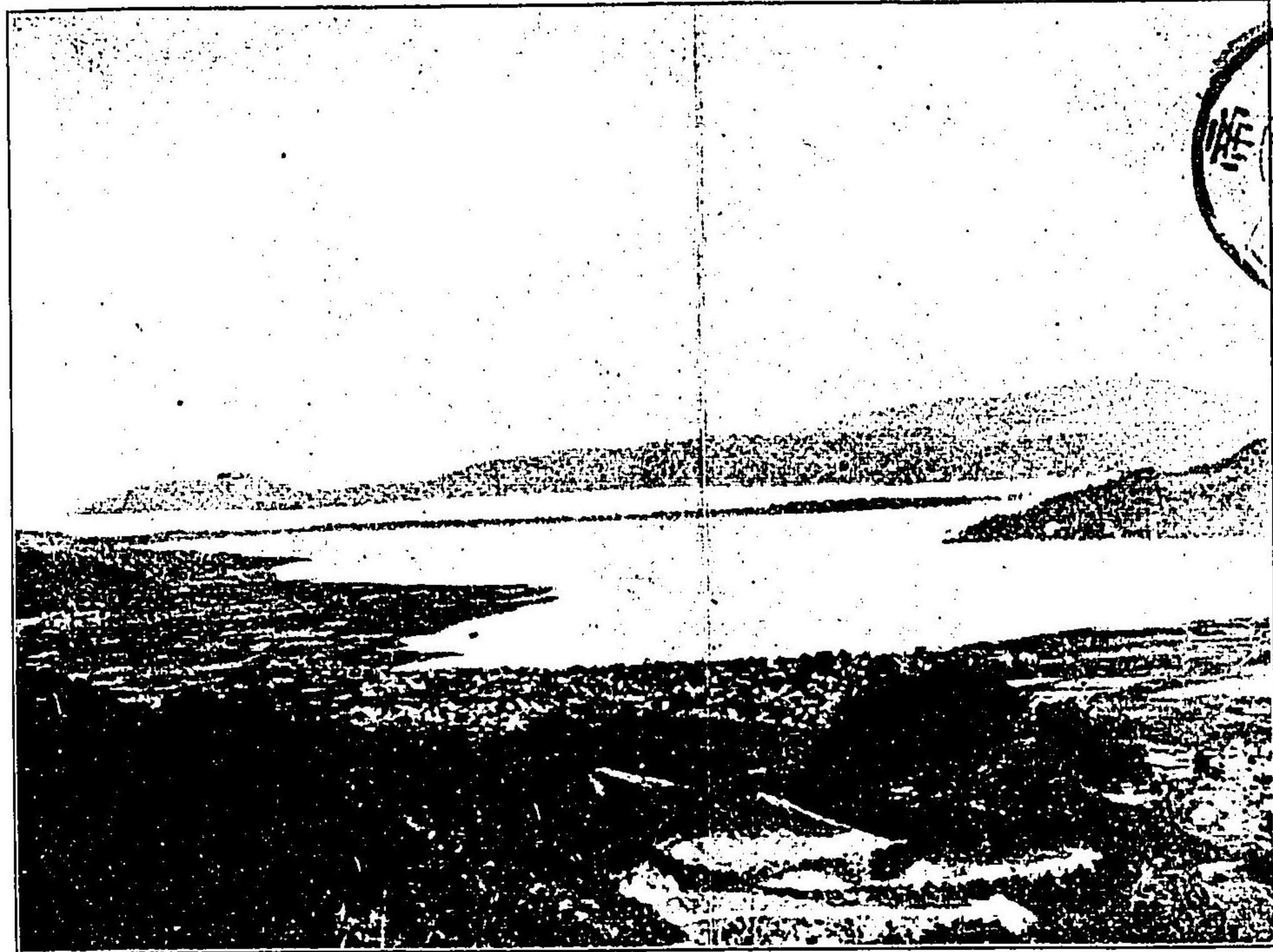
ADC-3076



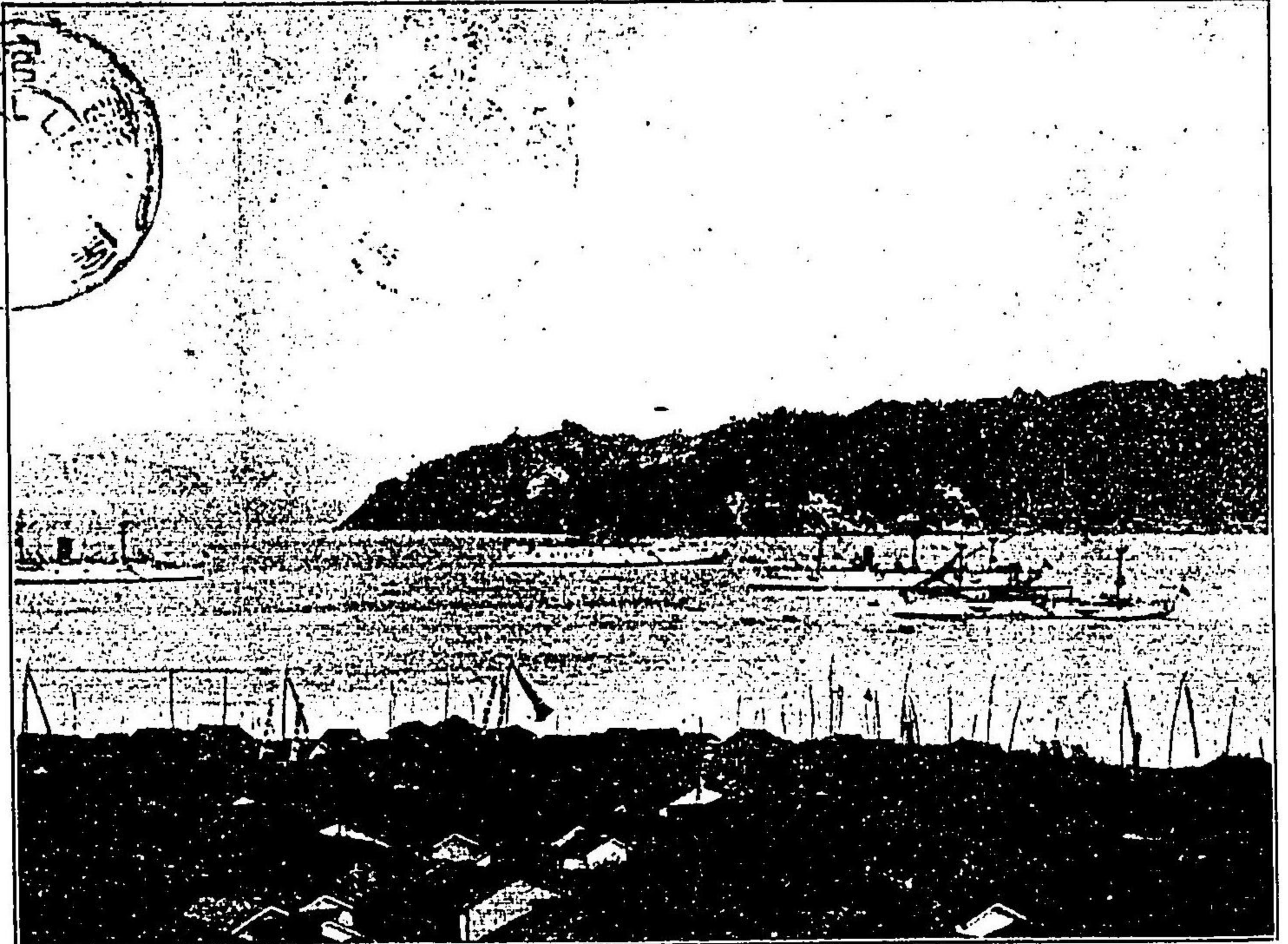




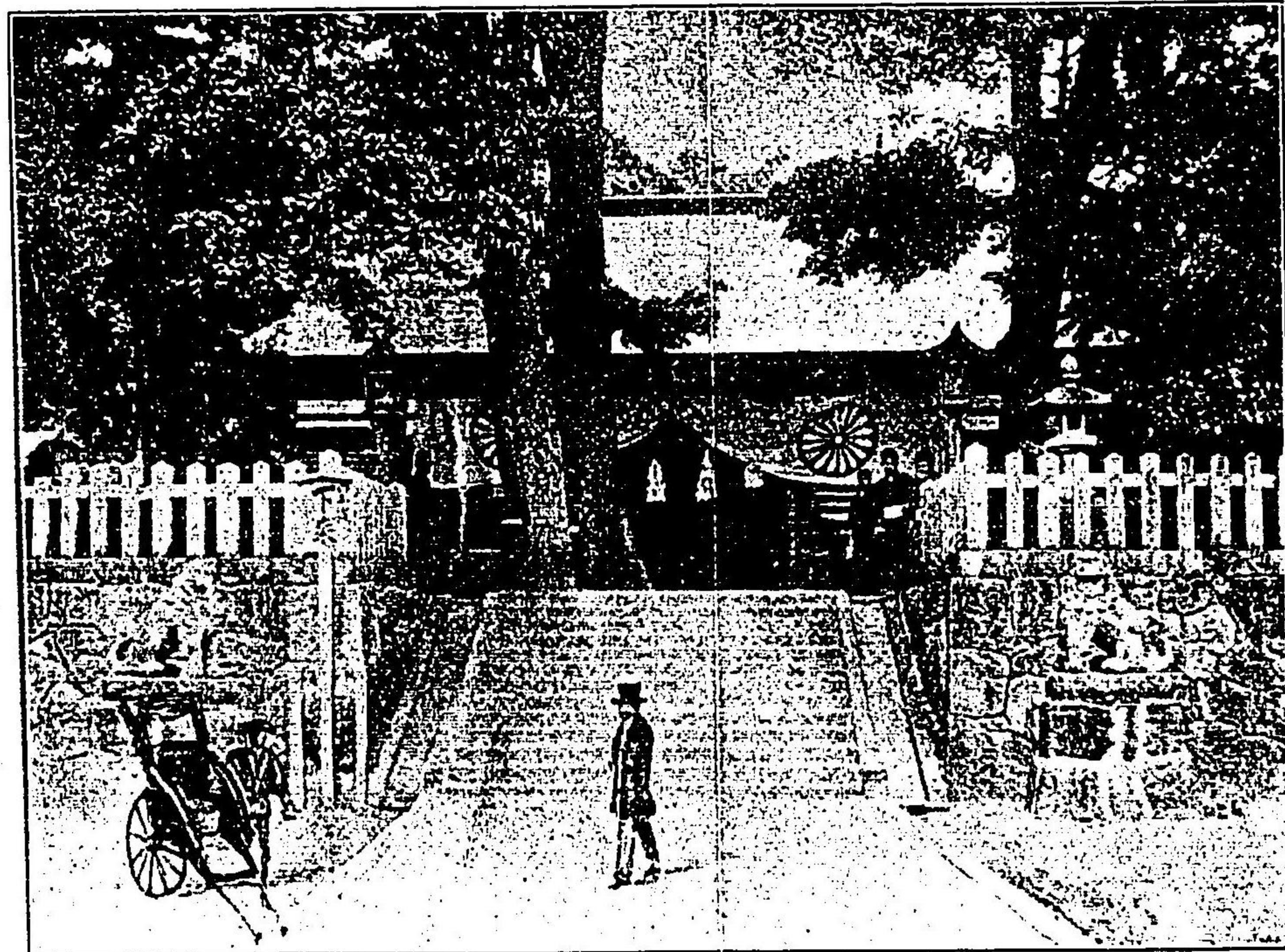




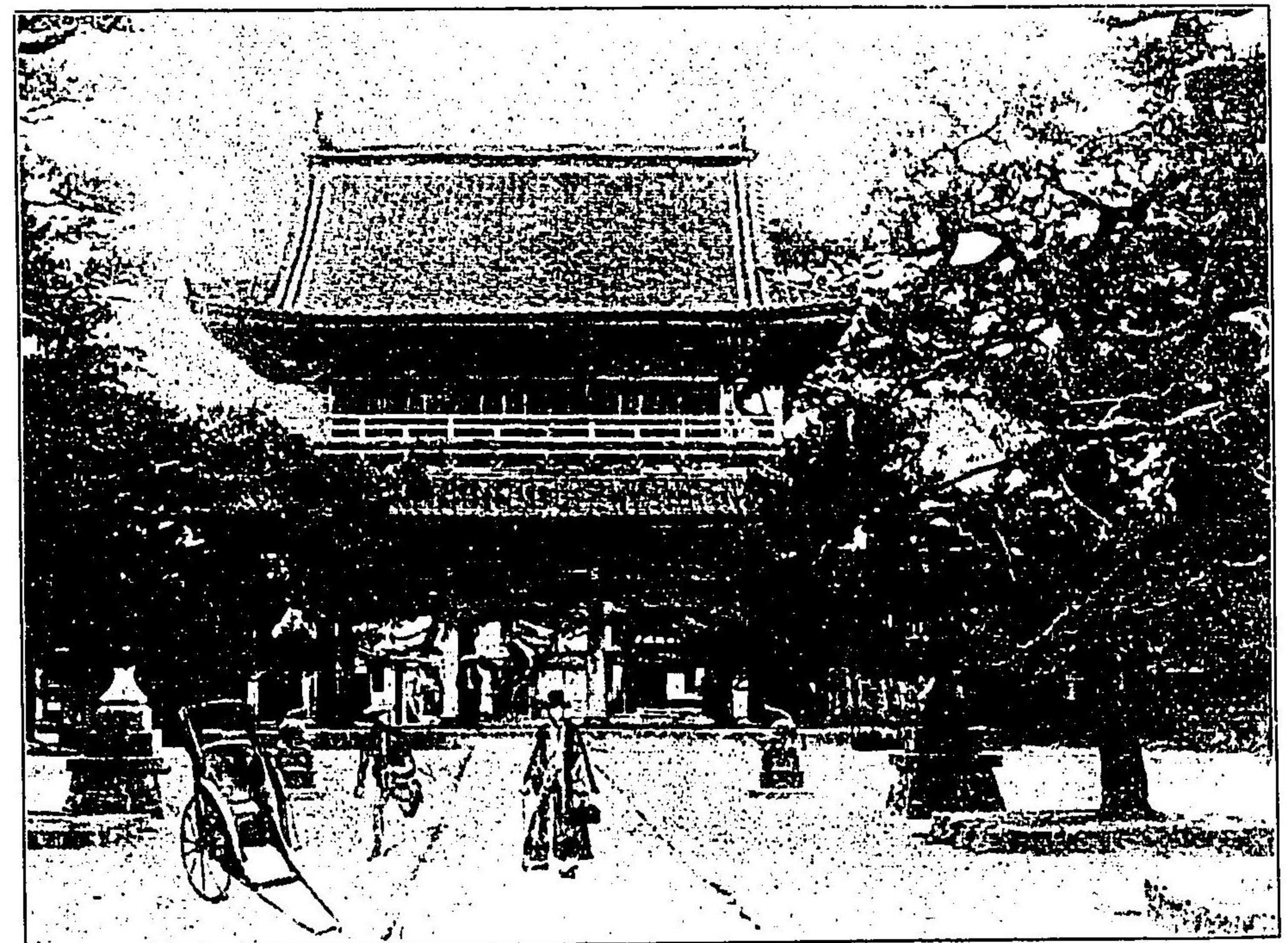
大内嶺ヨリ天橋立ヲ望ム(岩瀧港)



宮津津港灣



國幣中社 龍神社



文珠智恩寺山門



序

天橋の勝景固より卓絶なりと雖其附近に羅列する  
 名所古跡のこれと助くるなくんば豈其大觀を全ふ  
 ずるを得んや這回我宮津に於て大日本水産品  
 評會の擧あり博く魚鱗介蟲の水属を蒐め大に斯道  
 の獎勵と謀らんとす當日來津の江湖有志者必や幾  
 千萬皆天橋の勝を探くらるべし然りとはいへとも遊  
 覽の資料とせんば其不便を奈何せん當事者茲に見  
 立みやげなるものを著し以て好良材  
 と與へんとす覽者此書に就き奇を訪ひ勝を探らば  
 其勝景を觀盡して遺憾なかるべき歟



明治三十一年戊戌八月

醉堂散史





緒言

天下に一二を争ふ橋立勝景の名聲は多言を要せず國の内外を問はず來遊するもの勝景の大觀に心氣を壯快にし爲めに附近に於ける古蹟は足其地を踐んで古蹟たるを知らず口古人の玉吟を唱ふも其所を識らざるもの尠しとせず本年九月一日より宮津町に於て大日本水産會第七回品評會あり水産に係あるものはいふに及はず内外人の遊覽するもの千萬を以て數ふべし依て橋立附近古蹟の梗概を記し遊覽者の便に供すと云爾

明治三十一年八月

編者識す

橋立みやげ



○宮津港

丹後國の中央宮津に在り我國北海に於ける最第一の良港にして日本海

の咽喉を扼し本洲南北交通の要路を占め（敦賀港と連日漁船の往復あり六時間にして達す

べく又露領浦鹽斯德港并に朝鮮國元山津港とも二十四時間を費して達するを得べし）海陸

の地形天然に備われり灣内廣濶に錨地の水深は五尋乃至十二尋ありて一の障壁あるなく日

本三景の一なる天の橋立によりて岩瀧灣と境し南東西の三方は山岳環繞して風暴を障遮せ

るにより船舶の風波を避くるよよろしく北の一面開放するといへども左右の山岬突出して

海面を擁するか故に冬季西北風の連吹するも波浪の揚るなく灣内常に平穩なり灣首平坦の

地は宮津市街として人烟稠密萬貨輻湊常に殷賑をなせり殊に京都鐵道は舞鶴軍港を経て此

地に達すべく丹後鐵道も亦此地を起点とし但馬國城の崎と達するの計畫既に成りたれば鐵

道よして通するを得は群客雜沓をさばひるも亦遠きよあらざるべし



○重要産物

丹後縮緬。丹後鱒。乾烏賊一名袋

甘鯛鹽辛。宮津縞。生糸。

海參。女浪男浪〔千鳥賊を製したるもの〕橋立松の細工物。

○龜ヶ丘

宮津町の西端に在る小丘にして皇太神の祠あり丘上廣濶に眺望によりし北は天橋の勝景を眺むべく又灣港に林立せる帆檣を見るべし春は櫻花の爛熳せるあり夏は納涼第一の區にして晚景より涼を趁ふの客絶へず遙の沖に漁火の明滅せる欸乃の櫓聲と相和する奇絶語るべからざるの勝地なり

○櫻山

宮津町字萬といふに在り舊宮津の藩主本莊侯の祖先を祭れる本莊神社あり境内の眺望は龜ヶ丘より優れり毎年五月十一日の祭禮には撃劍鎗術砲術より其他舊徳川時代に行はれし諸術を奉納し又神樂浮れ太鼓の奉納等ありて喧鬧雜沓せり

○天神の社

櫻山の麓に在り傳へ云ふ神像は豊太閤秀吉公の尊奉し玉ひしを政所松の丸殿に傳へられ又之を京極侍從高和に傳へられしを其子丹後守高廣國守となりし時神殿を造營して別當大窪山蜜嚴寺に祭らしむ云々今は神社ありて蜜嚴寺なし

○分宮神社

宮津町字宮本町に在り鎮座年曆詳ならず相傳ふ當國一ノ宮の別宮ゆへに分宮と稱すと當社境内の東に二丈斗りの大巖あり水越岩みこしりかと云ふ此邊元海岸よて潮水の越

したる巖なり云々

○稻荷神社

宮津町の南京海道の中程に在り鎮座年曆詳ならずれども慶長四巳亥の年細川忠興公寄願あり神殿を再興せられしと元當社の大久保山の麓に在りしを以て俗に大久保の稻荷と云ふ

○松溪山智源寺

京海道の西の端に在り本尊は釋迦如來にして開山は心庵禪師なり元朱光院といひしを京極高廣妣惣持院殿の爲めは伽藍を建立し智源寺と稱すと客殿禪堂山門經藏等ありて市内の巨刹なり當寺境内山林の中は伊木常紀の碑あり碑石は前太閤秀吉公黄袍物夫伊木有齋常紀石塔と刻せり

○泰叟山國清寺

宮津町の南金屋谷に在り本尊は釋迦如來にして開山は別源禪師なり寺記曰寛永二年京極高廣の室壽光院父池田輝政の位牌を安置し當寺を建立す云々

○寶徳山大頂寺

金屋谷の端に在り本尊は阿彌陀如來にして開山は貞譽上人なり開基年代詳ならずも相傳ふ元犬の堂の後山上に在りしを寛永年中今の地に移すと當寺に台徳院殿大猷院殿の寶塔あり

○嚴松山如願寺

宮津町字白柏の西瀧上山の麓に在り本尊藥師如來は行基菩薩の作に



して山門の左右に安置せる仁王は運慶の作なり開山は皇慶上人にして今を距る八百餘年前に在り相傳ふ古昔の大利伽藍の地にして寺領多く近山盡く其境内なりしも天正の頃兵革未だ治まらず伽藍を修補するに違なく遂に諸堂荒敗して今僅に十分の一を存するのみ本堂の右に寶壽院といふ塔頭あり本尊は十一面觀世音よして聖德太子の作なり寶壽院の前は鐘堂あり鐘堂の下より橋を渡りて觀音堂あり此堂は安置せる聖觀音は傳教大師の作なり堂の傍ら經藏あり塔中は不動明王〔弘法大〕大日如來〔慈覺大〕不動明王〔傳教大〕地藏菩薩〔惠心僧〕の諸佛其他地藏菩薩如來の軸物等什寶あり

○愛宕山 如願寺の南に在り觀音堂の傍らより登ること凡そ二町餘なり山上は愛宕の祠あり眺望極めて佳絶なり社の後山は金引山ありよりて金引山愛宕權現とも云ふ

○金引山 愛宕山より登山するを得へく阪路極めて險峻なり山の頂きに大巖ありて南無妙法蓮華經の妙號を刻す一つの世奈何なる理由ありて刻せしにや詳ならず俗に山を

題目山といふ  
○瀧上山 金引山の北如願寺の後山に在り東の半腹一丈餘りの岩に不動明王の像を刻するあり此山を瀧上と云ふは山麓に瀑布ありしより瀧上山と名づけしと秋時多く松

茸たけのこを生し又躑躅つばき多く花候はなのときは紅緑相映して頗る奇觀なり頂上を狸たぬきヶ嶽がけといふ

○日吉神社 宮津町字白柏の北川向町の西に在り當社は四十五代聖武天皇天平九年江州阪本より勸請すと境内老樹深鬱枝を交はし晝猶暗し春秋には花紅葉の色づきて風流韻士の訪問は更らなり瓢酒に酔を買ふの客絶へず當社の祭禮は五月十五日にして市街各町より山車やまぐるまの臺上に在り種々を引出し浮れ太鼓神樂等の奉納あり宮津全町の祭禮なれば山車浮れ太鼓を見んと遠き國々より來觀するもの多く市内至る所肩摩雜沓をさほめり當社の寶物には

- 山王宮の額 前本鏡寺本覺院宮御筆
  - 山王宮の託宣 青蓮院宮天台座主尊澄親王御筆
  - 鏡二面 一は銘に天正十五年正月吉日一は元錄四年九月とあり
  - 刀二振 一は國光の作にして一は祐定の作なり
  - 銅の筒 徑三寸九分高七寸五分周圍一尺余
- 傳へ云ふ正保四年京極高廣公別莊を此地に營んと普請せる時土中より掘出せしと其頃筒の内に腐爛せる書類ありしと



○杉末神社 日吉神社の境内に在り當社は三十一代敏達天皇即位の元年大和國三諸山より遷し奉れり元と宮津町宇杉の末の山上に鎮座ましましなり社の傍らに杉の大木ありしに依り杉の末神社と號し又宮津の神社とも云ふ延喜式神名帳所載の一社なり社の傍らに漱玉の二字を刻せる石あり往時京極高廣公此地を愛し別莊を營み亭を漱玉亭と名つけし時の立石なりと云ふ

○犬の堂 宮津町北の出端に在り此丘の鼻を虎ヶ鼻と云ふ相傳ふ昔時今の文珠堂は橋立明神即ち與佐の宮の社地にして纒なる堂なりし故に堂守もなく波路村戒岩寺より文珠堂を兼管せり戒岩寺の僧一犬を愛養し所用あり文珠へ遣す毎に刻限を期するに時を違ふことなし一日此犬例の如く使ひせしに時刻遲滞に及ひしかは海岸の岩に頭を觸れて死せり寺僧哀憐の情に堪へず小堂を建て之か菩提を吊ひしとそ後ち延寶六年永井尙長堂宇を再興し碑石を建てり其頃の犬の堂は方二間餘の堂宇にして丘上に在りしも星移り霜重りて今は其處を異にし僅に其形を残すのみ碑石の文に

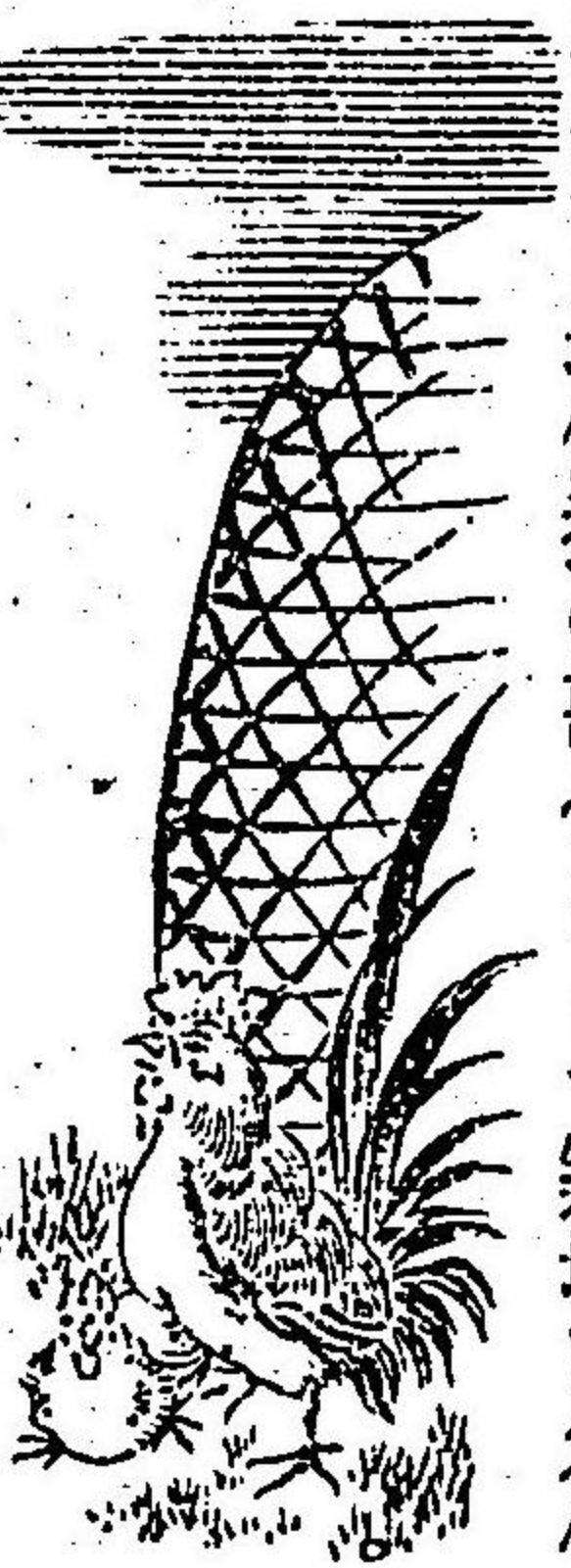
丹後國九世渡文珠堂近邊有寺曰海岸傳稱昔海岸寺僧兼管文珠堂其僧畜養一犬愛之此犬每日自海岸寺往來文珠堂累

年犬死僧憐之建一字吊祭之號犬堂嗚呼犬猶慕其寺主之愛僧亦恩及信吠之物不亦奇乎爾來星霜既舊堂宇毀壞非無懷古之感今興土木之事成斧斤之功乃記其趣以爲後証  
延寶六戊午年月日

當國宮津城主大江姓尙長建

弘文院林學士誌

○鶏塚 犬の堂より凡ろ五町斗り涙ヶ磯の山の手に在り嘗て丹後守公基朝臣日置の里金剛心院に詣でけるに寺僧歌物語の書ども取出して見する中に和泉式部の眞蹟ありければ請ふて之を涙ヶ磯の傍らに埋み塚を築き僧を賞請し塚供養の歌合ありて鶏塚と名付けしと和泉式部の眞蹟に



いつしかと待ける人に一聲を聞する鶏の愛別れかな

其後洪水ありて鶏塚の碑も砂中に埋まれけるを明應の頃智恩寺より塚を掘り出して之を文珠堂の傍らに建しかは誰にや其跡に石地藏を建てしといふ今文珠堂の傍らに在る歌塚は其



昔し鶏塚の磯なりと云ふ

宵鳴や鶏塚の蟲の聲

文 役

○涙 ケ 磯 鶏塚の海岸より北龍燈の松の海岸一帯を云ふ傳へ云ふ古昔花松なる白

柏子王君の爲めに磯の藻屑となりしかば人其死を憐れみ海岸數町の間を涙ヶ磯と稱へしと  
此邊りに潮壺老翁しほつばらうじん阪等の古跡ありしか今は容易く知れぬ程なり

夫木集

かつき出ぬ泪か磯の蛇ゆへ

宇 合

うみてふ海はかつきつくしつ

全

獨り寝る圃のひまより入月を

好 忠

涙か磯よ影うかふらん

寒風や泪か磯を苦にもせず

西 洲

誰か爲か泪か磯で鳴く千鳥

二 水

藻の花や泪か磯の忘れ草

似 扇

櫓の音や泪か磯の秋のくれ

文 之

○片 枝 の 松 涙ヶ磯の傍ら鶏塚と身投石の間海よ沿ふて小高き丘上よ在り片枝の松

とは松の枝一方に生して互生せず所謂都然しや片枝の松と云ふ是なり蓋し難波江の片葉の  
蘆須磨の磯馴あしすまの松の類よして天候の然らしむる所なりしも海岸のかはりしよや今は片枝の  
僅に一二を残すのみ

こからしの吹ちきりてや片葉松

谷 竹

○身 投 石 片枝の松と竜燈の松の間なる涙ヶ磯よ在り小松内府重盛の五男丹後侍

從忠房よ仕へたる花松といふもの源平八島合戦の後公子を敵に渡さんより寧ろ共に磯の藻  
屑とならんと或夜大岩の上より海中に沈みければ時の人大岩を身投石といふ云々

休む鵜や魚見付ては身投石

太 乙

藻の花の中よ捨たり身投石

斗 杯

○龍 燈 の 松 身投石より十間余り文珠道の傍らに屹立せる巨松なり(今より三十年

前迄は此邊より文珠門前に至る迄松樹並木の如く生茂り又今ある所の田園は海中なりしを  
以て景色殊よ勝れたりしを王政維新廢藩置縣の時名所記に載する龍燈の松を残し他は心な



きもの、斧斤に任せしなり。傳へ云ふ龍宮より龍燈を點すとて、特より有名なり。拾芥抄よ曰く、六齊日には丹後九世戸の文珠堂へ龍燈を奉ると云々。

天橋佳境世皆聞 松影連邊海色分 天 隱  
想見神龍行雨羅 擎燈又出曉堂雲

天可階升碧嶺層 文珠仙境海雲興 虎 林

潮涵六里松梢月 挑出龍宮殿裏燈

風しはる與佐の浦松夜見へて 徹書記

浪に消せぬ龍の燈火

夏虫の見つけぬ龍の灯かな 思 風

○文 珠 堂 文珠堂は宮津の北端犬の堂より約半里斗り天橋山智恩寺に在り相傳

ふ此地原と與佐の宮の社地なりしを中古波路村に在りし文珠菩薩を爰に移し與佐の宮を橋立なる濃松あつまつに遷し橋立明神と稱すと延喜四年勅して寺號を賜ひ莊田を定めらる開基年曆を詳よせず中興の開山を別源大和尚と云ふ（後より心燈妙照禪師の號を賜はりし人）堂よ掲げたる智恩寺の扁額は則ち 延喜帝の御震筆なり又聯に天一地一恩穗尊創久志渡前三後三延

喜帝賜智恩寺額と是れ其大概を揭示せり是より後殆んど一百餘年を経て藤原保昌當國の刺史となりし時再び伽藍を重修し其後小松内府重盛將軍足利義持を始め當國の守たる一色細川京極の諸侯伽藍を重修せしか享保明曆寛政の重修も朝廷より黄金を賜はりしにより山門を黄金閣と稱するなりと云ふ山門の正面に佛殿あり所謂文珠堂是なり本尊文珠菩薩は帝釋化人の作にして脇士于闐王均提童子は毘首竭磨の作なり堂の額五臺山は黄檗隱元禪師の筆なり聯よ天橋架記五臺山龍女獻珠擁護神代降臨七佛祖獅王舉足嘖叫とは僧無染元の筆なり佛殿の後に法堂あり法堂の東より方丈あり方丈の次より食堂衆寮あり衆寮の前より鐘樓門あり曉雲閣と云ふ曉雲閣の左より東司禪堂あり以上は東より連れり佛殿の西より無相堂次より塔室鐵盤あり（天橋記曰此盤昔當國興法寺と云ふ伽藍よりありし湯船なりと）鐵盤の大き六尺四方内に銘あり正應三年と記す鐵盤の次に經藏あり標月指の額は即非の筆なり經藏の次に三重の塔あり以上は佛殿の西に連れり又東の方に石地藏あり一は當國三重城主大江越中守應永三十四年造る所一千体等身像の其一にして一は永享四年日洲大守沙彌祐長の造る所と云ふ境内に和泉式部の歌塚芭蕉の一聲塚あり又米田堅物稻富一夢才藤徳元の墓あり山門の額海上禪叢の圖大納言の筆にして樓上に十六羅漢を安置す此地東北の端を念佛崎ねんぶつざきと稱し橋立の濃松あつまつと



相對す所謂切戸の渡り即ち此處なり此渡しの傍らに壞れ口ありて内外の潮水相通するの明治五年の崩壊によれり文珠堂の南方に小灣あり龍穴と名つけ其傍らの岬を臥龍の岬といひ辨財天の祠あり又寺の後を一念淵といひ此海濱を總稱して千歳の浦と云ふ昔時の景色最も佳なりしか滄桑の變と寺僧の雅味心なきとにより海潮の入江の田園となり昔時の跡たにもなし山門前の一帯を夕日の里と云ひ海濱を夕日の浦と稱ふ此浦に旗亭數戸あり亭上より天橋を眺むれば松樹舞んとするの處眞帆の行かふさま風光明媚なり故に四時來遊の客常に絶えず殊に夏時の海水浴は潮水清澄に波浪揚らざるをもつて最も可なり思案酒才覺田樂智恵の餅は此地の名物にして又橋立松の細工物松根筆文珠貝化石等あり

智恩寺什寶の概畧を擧ぐれば

- 大黒尊像 弘法大師爪刻の像と云ふ板の裏は袈裟の圖にして圖の上に開元丙子の四字あり
- 鰐口 銘曰至治二年壬戌十月十六日海州首陽山藥師寺禁口と至治は元の英宗の年號なり
- 短冊 慶長年中烏丸光廣卿下丹の時歌合の短冊
- 香爐 螺貝珠 古刀鏝 八僊鏡
- 心經 傳教弘法兩大師の筆

涅槃像 晁殿司筆 觀音像 李龍筆

釋迦尊像普賢の像地藏菩薩 張思恭筆 法燈國師の墨蹟

維摩像 啓書記筆 阿彌陀如來 惠心僧都筆

此の外細川幽齋公の扇面茶杓并に細川京極諸侯の制札等あり

碧海中央六里松 天橋絶境是仙蹤 材 庵  
 夜深人待龍燈出 月落文珠堂裡鐘  
 開關天橋天下奇 雲松連海綠參差  
 依稀無着五臺寺 稽首瞿曇九世師  
 鐘色籠雲僧梵敬 松聲搖月客眠遲  
 洛必纒罷有餘暇 笑拈袈裟共賦詩  
 久聞佳境地、縱目舊懷開、山饒煙霞泛、 萬 拙  
 海連潮汐來、沙長看渡近、松老識天裁、  
 刹下文珠境、古今稱五臺



聞説五臺一古林 艤舟特地此登臨

別傳

枯來寶玉擲雲漢 化作天橋立海心

法水長年湛石呼 龍燈不夜掛松陰

當陽吐露分明也 前後三三不用尋

始到天橋愜素聞 沙明松老遠雲連

青山排潤吞滄海 翠竹含煙映夕燭

國定

一葉輕舟無膺釣 千年古寺絕塵粉

丹陽任滿將歸去 形勝不堪持贈君

九世の戸や松の葉越に沖見れば

花山院

いつもたへせぬ海の釣舟

家集

真砂ふみ見にこそ來つれいるかたや

平祐舉

夕日の浦のあまのはし立

夫木集

來ても問へ歸ると思へは下紐の

讀人未詳

夕日の浦のかひもなき哉

佛や夕日の浦の朝月夜

也梅

朝霧に夕日の里もかくれけり

松風

九世の戸の松の古ひや一かすみ

雨柳

九世の戸の開き心や秋の月

文枝

明そめて霞の渡る切戸かな

宗卯

長き日やいつを切戸の渡舟

波文

夏知らぬ切戸あたりの住居哉

僧松

○天橋立 宮津より北西にあたり海上へ三十餘町細く長く生出したる島にして幅

は廣き所にて三四十間あり此島高きにもあらず波打際よりわづかに高き島なるに古よりいかなる大風高浪にも終に水の島を越し又は島の切れたるためしなく海上へ眞直に生出て殊に松根の白砂一帯糸を引きたる如きにより白糸の濱とも稱へり島の左右に松樹並木の如



く連りいかなる汐風にも枯るゝなく幾千代を經しも緑の色はますく常盤の影を顯はせり  
並松より外は左右共に漫々たる大海よて百千船の出つ入りつする風情ハ亦一段の奇景なり  
松樹の生茂りたる所を濃松といひたろろかなる所を淡松と云ふ濃松の中は橋立明神の社わ  
り此側は磯清水の井あり橋立内外海潮の中に在りて少しも鹹味なく名水といふべし

天橋記

梅辻春樵

是謂鳥鵲架空吾亦不敢疑之是謂長鯨露背吾亦不敢疑之唯  
疑天何日而造之乎地何時而設之乎抑天有何意而築于無始  
之世乎地有何力而抽于無底之水乎天橋三十里松樹如薺歷  
々横截海灣之中央直爲長橋之體勢矣橋之南北曰内外之海  
内海稍小而外海頗大其大之與小以橋之與山相去之廣狹而  
言之内海之洞涯其山曰樗嶺曰成相抱擁無有缺處抱擁外海  
之山曰栗嶺曰黑崎雖抱擁而不盡得抱擁黑崎山缺與稻山對  
峙爲海門遠引空洋波瀾亦自大非如内海之平穩也天橋盡處  
曰截渡内外之所接狹如川流一眺可踰而潮進汐退焉舟往帆

還焉文殊禪寺臨水沚而管領天橋三十里焉凡觀天橋之勝宜  
觀於高處不宜觀於卑處觀於高處者樗嶺也成相也栗嶺也黑  
崎也吾始觀之樗嶺之頂尋而蹈橋上三十里遂觀之成相之嶺  
未嘗於栗嶺黑崎而觀之或曰於栗嶺而觀之松根之白沙一帶  
連綿如線索之漂波上者故一名素絲洲也成相之麓爲天橋之  
尾瞻望至截渡如其首然於成相之嶺俯而觀之隱乎爲大錫杖  
之體勢故一名錫杖洲也吾始於樗嶺而觀之不爲翠松之連  
水眞以爲飛鴻之劃雲姑名之曰雁字洲亦可也雖未嘗於栗嶺  
黑崎而觀之恐當不若觀於樗嶺之奇也且天於樗嶺則横天橋  
而觀之於成相則豎天橋而觀之豎之而觀其奇於爲豎横之而  
觀其奇于爲横又親蹈橋上三十里合觀左右内外之海天樗成  
栗黑之山色未嘗不嘆定奇更奇也蓋自開關以來有天橋自有  
天橋以來不濶不崩而至今日者身毒姑措之支那之十倍于吾  
邦豈有其比類乎大抵洲堤之似橋白公築之蘇公亦築之多是



尋常汚穢中之假構興廢無常者也不翅白與蘇之所為雖秦皇  
 鞭石較之造物者之先着則實可謂兒戲也嘗聞與與之松島藝  
 之殿島俱為鼎趾之奇景吾未見其二趾今已見一趾即欲把筆  
 而銘焉宿文珠寺之夕竹原和尚藏先輩某記出而見跡凡庸之  
 筆難堪讀之頗覺汚蔑天奇矣因以謂不有奇人則無奇思不有  
 奇思無奇筆不有奇筆亦爰得敵天之奇絕耶吾願身作煙波釣  
 徒終年徇天橋之下飽畜奇思飽磨奇筆而後方始得文敵奇  
 奇稱文矣又願夢上鵝橋乞巧于天孫醒跨鯨背祈靈于冥若而  
 後方始得一揮自有天橋以來之神筆矣今所筆者僅寫其影跡  
 而已

聞道丹州名勝地

風帆映浪雨晴時

菊路

松林一帶海中湧

始識天橋天下奇

一葦縱適天橋洋

擲釣肝賊海殿方

南山

雲吟山吟林鞞國

波間龜見大魚狂

疑是扶桑到水枯 松生海底數千株  
 支那四石聞人泛 盧瀑折潮看似無  
 水磨雙鏡劃東西 數里青松如削齊  
 神護千年波不駭 汀沙清處鶴鶻啼  
 北海名洲松作林 春風入夜鼓天琴  
 此聲若使子期聽 當識三山仙子心

彦龍

澤邊北溟

梶川大窪

須、しやと與佐のみなどによる舟の

光照上人

たよりうれしき松風のころゑ

君問い見すは知らしとこたへまし

烏丸光廣

言の葉もなき天のはし立

さとはるゝ友よひかれてけふはまつ

中院通勝

都とろ思ふ天のはし立

たよりあれはまたれし雲の上人も

細川幽齋



けふふみそむる天の橋立

涼しさは松に音してはし立の

氏人逃久

うらとをかよふ興津しは風

すゝしくも空よかけたるはし立の

松下久慶

松もかはらぬ千代のかけそふ

沖津風まつよやとりて涼しさや

之昌

うちともわかぬ天のはし立

わすれすはいく野の道の遠くとも

細川忠隆

又もふみみよあまのはし立

金葉

戀わたる人よ見せはや松の葉を

藤原範永

下紅葉する天のはし立

續後

神代よりかはらぬ春のしるしとて

太上天皇

霞渡れる天のはし立

千載集

思ふことなくてや見まし與佐の海の

赤染衛門

天のはし立都なりせは

詞花

波たてる松のしつ枝を卿手よて

源俊賴

霞渡れる天のはし立

續古今夏

橋立の倉梯川よ刈草の

後鳥羽院

永き日くらし涼むころかな

玉葉集秋

橋立やまつ吹わたる浦風よ

大江茂重

入海遠くすめる月かけ

新古今



思ふへきかたころなけれ松ヶ枝よ

藤原為忠

三

夕霧わたる天のはし立

新拾遺

與佐の浦入海かけて見渡さは

前大僧  
正知覺

松原遠き天のはし立

家集

遙なる入海かけて沖津浪

藤原為氏

聞よこへたる天のはし立

續拾遺

ふる雪よ幾野の道の末までは

正親町院  
右京太夫

いかよふみ見ん天のはし立

家集

和布かる春よしわれは驚も

源三位頼政

木つたへ渡る天のはし立

草庵

橋立や松風霞むあけほのよ

慈鎮和尚

空飛ひ渡る春の雁かね

玉葉集

昔より契りし神の二柱

殷富門院  
別當

今も朽せぬ天のはし立

名寄

與謝の海内外の濱よ浦さひて

丹後様好忠

うき世を渡る天のはし立

泉妙集

橋立の松の下なる磯清水

和泉式部

都なりせは君も汲見ん

橋立や花なき人の心よも

路十

橋立や降るは泡雪茶煎松

澤庵

三



橋立や横すじかひに行時兩  
 はし立や神の心の細ながさ  
 はし立やうみに一すじ青嵐  
 はし立の隣まで来て秋の雨  
 橋立や幾松の根の友からみ  
 橋立やしらまぬ松の一文宇  
 橋立や文珠の智恵の巻輾轡  
 月や知る此橋立の渡りろめ  
 呼子鳥渡る橋あり與佐の海  
 橋立や松の月日のこほれ種  
 橋立や渡と見るは月ばかり  
 橋立や海へも配る春のいろ  
 はし立や右も左も月のかけ  
 はし立や女浪男浪も月の露

蝶 夢 布 雪 梅 裡 龍 筒 萬 籟 露 川 支 考 轍 士 百 川 燕 村 文 下 起 龍 一 紅 可 興



郭公たゞ一聲に松六里  
 橋立や何で年寄る渡し舟  
 松ヶ枝を片手よ汲や磯清水

雪 松  
 梅 通  
 竹 圃

磯清水記

丹後國天橋立磯邊有井池清水湧出蓋在海中而別有一派之源乎古來以爲勝區呼曰磯清水郷談有言和泉式部和歌曰橋立農松農下奈留磯清水都奈利勢波君毛汲末志云々式部從藤原保昌來當國則其所傳稱非無緣也今應清水混海鹹而尋其水路新構幹欄以成界限永使勝區之名垂於不朽而考古之人無辨尋之疑

延寶六戊午年月日

當國宮津城主大江姓尙長建

弘文院林學士誌

○無字塔 文珠村より西二町余りに在り往昔は海中に在りしと云ふ無字塔一よ三角五輪と稱ふ寛印供奉來迎會式を行はれし時内海は殺生禁斷の地となりしより人々よ餘風



残りて塔より以南二町余のところ網罟あみを入れさりしと或は云ふ無字塔は殺生禁斷の塔なりと云々

○菩薩 岩 内海輪の崎の海中に在り俗に見猿みさると云ふ廻り五六間の岩上より立石二尺斗りなるよ地藏尊像を彫刻せるものを安置す方一尺斗りの▲の如き石を以て石像は被らしめり其石恰も人の笠を着てうつむき釣を垂る、か如く前の方より傾き今も落んと見ゆるもいかなる風雨高浪にも傾かず奇工と云ふべし

○籠神社 國幣中社 成相山の麓府中村宇大垣といふに在り當社は神代の鎮座にして延暦の頃までは朝廷より造營ありしか其後は造營もなかりしと雄略天皇二十二年九月豐受皇太神を當國與佐郡眞名井原より伊勢度會郡山田原へ鎮座なし奉りし時分神して眞名井原に留め祭らる是所謂與佐の宮なり其後與佐の宮を籠神社と相殿は祭り奉れり祭禮は四月中旬の日よして俗に一の宮祭り又は葵の祭りと云ふ近郷の男女は素より遠き國々より參詣するもの多し祭禮には太刀振りとして氏子の若者ども同じ衣裳いいでたち笛太鼓の調子よ從ひ太刀振りたぎして勇まし祭禮なり又祭日は遠近の牛商はな多くの牛を牽き來りて牛市をなすの慣例あり當社には正一位籠大明神と書せし小野道風藤原佐理卿直筆の額又猿田彦の假

面兒の舞裝束雄劔等あり

○護國山國分寺 府中村宇國分は在り開基は行基菩薩よして中興の開山を宣基上人と云ふ天平年中每州よ國分寺を置れし其一なり本尊金銅藥師如來は 聖武天皇の御作よして丈六藥師の腹内に安置しまつれり丈六藥師の面像は 光明皇后の御作なりと傳ふ 後醍醐天皇の時宣基上人よ勅して伽藍を再建せしむ嘉曆二年戊辰五月八日經始めの式左の如し

- 供養大願主 國司内大臣正二位藤原朝臣公賢
- 勅使 正五位下行内匠頭藤原朝臣光道
- 祝部兄部 正六位下行權助 藤原朝臣忠助
- 導師 沙門 宣基
- 咒願師 沙門 妙圓

當寺什物中最も名あるものは

鬼形の假面

毎年正月十三日は鬼面開扉の日よして常よは人よ示さず之を出せば必ず雨あり依て祈雨あまこひに之を用ゐて効驗ありと云ふ



○世谷山成相寺 天橋の北府中村の山上十八町に在り本尊は聖觀音慶雲元年の開基にして文武天皇の勅願所なり西國三十三所の内第二十八番の札所なるを以て賽客常に絶えず本堂は南向にして五間四方あり仁王門に安置せる仁王は運慶の作にして不動堂の不動明王は常陸坊皆尊の筆なり此山に登るに二道あり一を本阪といひ中野村よりするもの一を大谷阪といひ大垣村よりするもの頂上を鼓ヶ嶽つづみがたけといひ西方の山を新熊野と云ひ南方の山を阿彌陀ヶ峰と云ふ當山は所謂天橋賞覽三絶の一として山の半服六町斗り俗に傘松と稱する一本松の下を最もよしとす股眼鏡とて天橋を背にし腰を縋ひかめ俯して股間またのあいより眺めば全景浮ぶが如く奇觀中の奇觀なり又境内より遠くは能越若の諸國を觀るべく近くは海中に冠(雄島)沓(雌島)の二島眸中に在りて壯觀なり當時の什物には

波切不動明王

弘法大師筆

傳曰空海入唐歸朝の時海上風波大よ起り船を覆へさんとす空海時に不動明王を心中に念するに忽ち船頭に明王の形を現し寶劍を以て惡浪を切退き爲めに一船恙なきを得たりと後ち空海明王出現の像を繪くこと三幅是れ其の一なり自餘の像と異よしと脇士童子一人を圖せり

辨財天畫像

傳教大師筆

俱波利彌陀畫像

晁殿司筆

不動明王

烏羽僧正筆

八字文珠

傳教大師筆

弘法大師肖像

眞如上人筆

十六善神

智及筆

彌陀如來

惠心僧都筆

此の外足利尊氏を始めとし細川明智等の制札あり

波の音松のひよきも成相の

花山院御製

風吹きわたす天の橋立

十六夜や成相阪を下り阪

貞室

成相の若葉よ見越す越の雪

志一

いなつまや成相阪よ息を繼

某

○大内嶺

天橋の西内海の西岸を岩瀨村と云ふ(縮細生糸を販賣するの家業を並



へ殷賑の地なり）此地より當國中郡へ出るの峠なり此嶺は天橋賞覽三絶の一にして（成相山よりは縦に此所よりは横に見る）嶺上より天橋の勝景を眺むるに天橋は横一文字よ翠紅の海に突き出たる又蝴蝶の飛ぶ如く白鷺の翔るか如く白帆の松の葉梢に顯る、其風景の奇觀なる快と呼ひ妙と呼ぶの外言辭の盡すべきなし

橋立や松を時雨の越んとす

蝶 夢

○妙見堂 大内嶺の山嶺に在り堂一よ花月堂といふ堂の前後櫻樹ありて觀花よよろしきと望月よよろしきとにより名つくと又秋時は紅葉の霜に飽きて色つきたる様風景絶美の地なり

○有田の瀑 宮津町より南數町有田村より山路を登ること四五町老松古杉森々として幽邃なる山間に在り瀧の高さ八十尺傍らに不動明王の小堂あり又少しく隔て、瀧馬神社あり夏時涼を納れ又は瀧水に沐して髪を洗ふの人多し茶店あり蕎麥を嚙く俗に有田の瀧蕎麥とて名高く味甘し

○重ね岩 有田の瀧の傍らに在り方丈餘の石二つ重なりて恰も甌を重ねたる如く頗る奇觀なり

○猪の岡八幡社 宮津の南京口町の東猪の岡に在り社記よ曰く長和五年城州石清水より勸進すと（長和は三條帝の記號にして藤原保昌丹後守に任せられたるの時なり）當社の山嶺は天正六年細川藤孝織田信長より當國平均の命を受けし時初めて當國に入り猪岡八幡に陣取せる所にして今猶礎石斷片の存するあり

○今福の瀧 宮津の南よ今福村といふあり全村より山路を行く七八町両山の間谷川のはげしき流れなり雨後水増せば流水の詠め極めて愉快に又水少き時は岩石にせかれて流水の千筋に分れ恰も糸を亂せる如く大よ奇觀をなせり瀧の側に不動堂あり

○大江山 一よ千丈ヶ嶽 宮津より南二里余り普甲嶺（一よ千歳嶺と云ふ）を過きて佛性寺と云あり是より右に一里斗り登れば大なる岩窟あり之を鬼ヶ窟といひ其嶺を千丈ヶ嶽と云ふ此岩窟高さ四尺斗り横五尺斗りあり内へ入れは八九疊斗り敷き得べきの洞あり其奥に又四五尺斗りの口あり夫より先は殊の外廣く見ゆるも暗くして見るを得ず又岩間より露したより蝙蝠群集し居れり其邊に千丈ヶ瀧あり其より半里斗り麓に千丈ヶ原あり又童子が馬場五入道が池などあり山の後より下れば石川温江加悦等の諸村へ出る道あり傳へ云ふ酒頭童子といふ凶賊の類此山に棲居して物を害し婦女を掠め往來の金銀民家の財寶を



奪ひしかば源朝臣頼光勅命を奉し綱保昌等を卒へ入降行者（山伏）の姿に變し凶賊を誅滅せりと頼光か凶賊を討滅せるの前國中の神社靈佛へ願書を納め祈念ありける其一を擧るに

此度當國大江山爲夷賊追討蒙

勅命發向訖速祈觀音大士之擁護所可被

抽丹條如件

寛仁元年丁巳三月十一日

攝津守源朝臣花押

敬白

成相寺衆徒

○和泉式部の屋敷跡

宮津町の東城東村字山中といふに在り石塔五輪ありて其側に式部が自から栽せしといふ淺黄櫻の大木ありしか星移り物變りて今は僅に紅楓もみぢの一樹を殘すのみ

○栗田隧道

宮津町の東波路村を経て栗田村に至る栗田嶺の頂上に在り花剛石を以て積み卷し堅牢無比の隧道なり此隧道の花剛石は同嶺の一岩石なりじを斷切して之を疊み

しと云ふ隧道に至る栗田嶺は天橋賞覽三絶の一として白砂一帯素糸を引くか如きの上よ青松の茂生する恰も龍の跳りたる如く或は長鯨の背を露はして頭を擡げさる如く眺臨極めて佳絶なり特に朝暾の時を以てよしとす

○栗田神社

栗田村字上司に在り祭神は住吉大明神にして祭禮は毎年九月十三日なり祭日には栗田一郷八ヶ村の村々より神輿を昇き來りて當社の廣前より掘置き獨り當社の神輿を社前の濱邊に昇き出し各村々より昇き來れる神輿の當社の神輿を巡らし廻ること數回之を恒例とせり式事の後社頭に遠近の力士を集めて相撲の催あり故に祭日には祭禮又ハ相撲を見んとて貴賤男女の別なく來り集ふもの夥し

○栗田灣

栗田隧道を経て十數町に在り灣内清澄にして暗礁なく水深は淺からず深からず商船の碇泊に便なり此灣港より由良舞鶴の諸港及舞鶴軍港への便船あり栗田灣より陸路由良港に達するの道路ハ平坦砥の如く海に浴ひ山を負ひ遙の沖に冠沓の二島を望み近くは城山夢窓の諸岬を觀又能越の諸國を雲烟模糊の中に見るへく景色の佳なること圖畫も亦及ばざるの奇景あり此道路を過ぐれば所謂由良港なり

○越濱

栗田村字小田に在り國中濱よ名あるもの凡そ五ヶ所五色濱水晶濱太鼓



濱琴彈濱越濱是なり越濱は東西七八町南北一町余滿地ごとく玉砂よして粟粒の如く恰も水晶を布けるよ異ならず又玉砂の中に歌仙貝其他種々の貝殻あり此濱より北を見渡せば大海漫々として長天と共に一色を爲せり

○片かた 鳴な 宮津の東城東村の内字獅子を過ぎて矢原村といふあり數町女島めしま（女島の砂は形ら齒の如く其色雪の如し齒拔砂はきりすなといふ）を経て小山を越ゆれば即ち片島にして眺望佳絶なり獅子村より此島に至る海岸に蓬萊岩獅子岩等の奇石あり

斜泊耀晚水無波 一様江如光倚羅 有少辨有富

何處源郎曝眼網 嶋陰互答唱高歌

續古今集

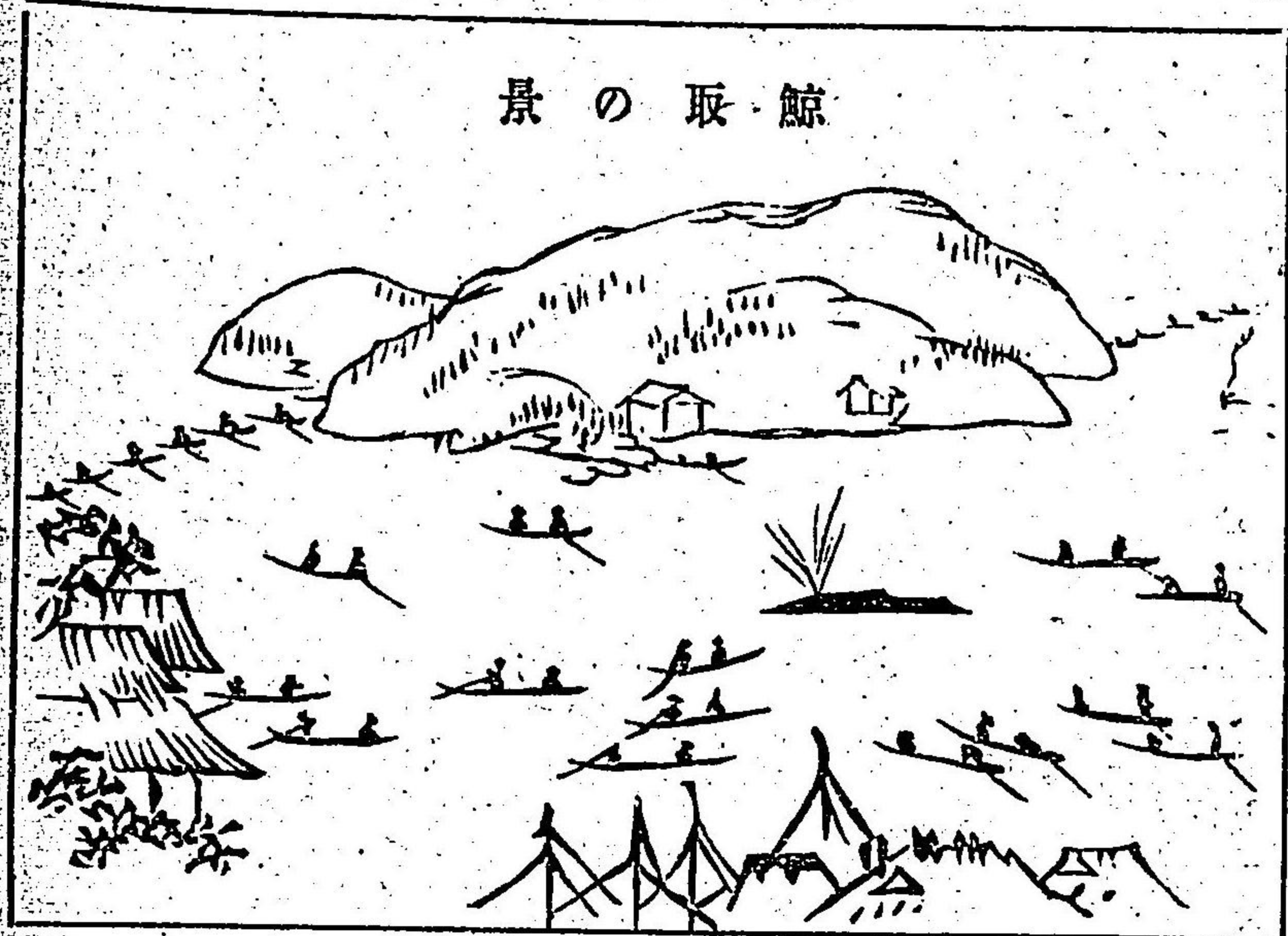
曉の夢よ見へつゝ梶嶋の

藤原宇合

岩ころ波のくたけてる思ふ

○秘密山金剛心院 宮津より二里日置上村に在り本尊愛染妙王は弘法大師の作にして開山は忍性菩薩なり始め寶光壽院と稱へしか後二條院の時勅ありて金剛心院と改められしと云ふ當院より六波羅の制札其他足利京極等諸侯の制札あり

○伊根浦 一名稻浦 天橋を距る四里斗り北方に在り伊根とは日出村より龜島までの惣稱にして灣口を青島あおしまとして周回十五町餘の樹木鬱鬱せる島あり其形の龜に似たるよより龜島とも云ふ世の人口に鱧炙もては炙りせる丹後鱧だんごは此所にて漁するなり又鯨鯢くじらの灣口より入りし時は數十の漁船先を争ひ捕鯨するのさまは壯觀にして他に其比類を見るへからず八島檀の浦の昔時を追想して轉た懷舊の情を催さるはなし此灣に龜岩と稱ふる岩あり故よ此處を萬代の濱とも名づく



家集

和布かる與佐の入海かすみぬと 鴨長明

蟹には告げよ伊根の浦風

萬代の名をとよめたり濱千鳥 如水



小松ふく風のとかなり子の日崎

魚 共 暮

○水の江浦嶋 此浦日量里ひかりのさとに浦島兒と云ふものあり仙龜にひかれて 雄略天皇の朝より 淳和天皇の朝迄海神の都に在り再なほひ此渚に歸りしと云ふ依りて此里を浦島と稱ふ云々

後選集雜

あけてたに何にかはせん水の江の

中 務

浦島か子を想ひやりつゝ

蘆嶋のさわく入江の水の江の

人 丸

世に住かたき我身なりけり

千載集

百千たひ浦島か子は歸るとも

俊 成

はこやの松は常盤なるへし

續古今

見すはまたくやしからまし水の江の

後嵯峨院

浦島か住む春の明ほの



夫木集

神さひてよはいたけたる松風や

慈鎮和尚

猶水の江に吹まざるらん

○浦嶋の社

伊根浦より二里斗り北本庄上村に在り

此間を淺妻とて藤原保昌の獵せし所なり境内に一

本杉ほんすぎ皴そり杖ぼう

浦島兒が玉手箱を

鞆かづこの橋

踏ふむ音鞆かづこに似たり故に名付くと

あり傍らの川を吉野と云ふ海

邊へらを常世の濱と稱ふ當社の什物には

大 軸 物

巨勢金岡筆

島兒か龍宮に至りしより故郷へ歸りし迄及び神に祭りて祭禮の式を擧げし迄を圖

せり

十六善神の圖

張思恭筆

小 袖 表

島兒か小袖と云ふ

姫手道具

大手小手箱



大小鞍筒

假面

夏の夜は浦嶋か子の箱なれや

はかなく明てくやしかるらん

雲かこひ朝戸をひらき我れれば

常世の濱の波かどそ聞ゆ

中務  
仙覺

○布引の瀑 本庄宇治村の上に在り山を雲引山と云瀧の高さ三十餘丈幅四五丈あり

て當國第一の瀑布なり此邊に浦嶋兒が亭の跡と云ふ所あり又此瀑布を能野の瀑布とも云ふ

昔時白雲玉手箱の内より出で、此峰にたなびき常世の國へ去りしとて雲引山と名づく云々

○雁門岩 泊村より本庄浦に出る海邊に在り磯を離れて海中に高さ三丈餘ありて

門の形らしたる岩なり兩柱の上の渡り迄一面の石にて其間は船の通行を得ると云ふ

○屏風岩 鷺崎より新井崎に至るの道に在り又劔岩とも云ふ

○經ヶ岬 宮津より亥子の方十七里に在りて與謝竹野兩郡の境なり此海邊巖石多

くして北海の廻船第一の難所なりと稱へしが今は岬の山頭に一等燈臺の暗黒を照らすあれ

は舟利の便は昔日の比にあらず海面より海岸を見れば岸石盡く經卷を立たる如く或は開ら  
きたる如く或は卷たる如く種々の形らしたる岩並べるか故に經が岬と呼ふ云々此海岸より  
竹野村に至るの間穴文珠あり其他海岸絶壁にして奇勝百出人をして應接し違まあらざらし  
むとは此邊を云ふなるべし

○雄嶋 一名冠嶋 伊根浦より三里の海上に在り嶋の回り一里六町余山ありて

諸木大竹生茂れり其中に神社あり此嶋北方の岸に建神と稱する岩あり直徑凡そ二間餘り高

さ十五六間の岩なり嶋と岩との間離るゝこと僅に五六間なるも其深きこと水底を知らずと

云ふ雄嶋雌嶋此陰陽二島を釣鐘島棒嶋とも云ひ又陽嶋を男鳥島陰嶋を女鳥島とも云ふは形

ちの鶴鶴に似たるを以て名付く云々

○雌嶋 一名杳島 雄島の西海上に一里に在りて回り廿四五町ありと云ふ嶋中よ

小鳥群集して曙毎に其聲數里に聞ゆ云々

新拾遺

泊する小島か磯の浪まくら

大納言道具

さころは吹め與佐の浦風

此



續後選

夕されは汐風寒し浪間より

謙倉右大臣

見ゆる小島に雪はふりつゝ

風雅集

明渡る小島の松の木の間より

從二位家隆

雲よはなる、海士の釣舟

續古今

袖ぬらす小島か磯の泊りかな

藤原俊成

松風寒みしゝくれふるなり

○琴 彈 濱 宮津より十里餘り竹野郡懸津村に在り砂石玉の如く之を歩めは歩々彈

琴の音を發す故よ名づく云々

○太 鼓 濱 竹野郡懸津村の邊りに在り大海を受けて波荒らく砂明なり之を歩めは

歩々繁々太鼓の響あり故よ太鼓濱と云ふ云々

○五 色 濱 竹野郡木津村より東方五六町に在り一町よ十間斗りの處を云ふ砂石五

色をなせるを以て名付くと又榮花物語玉葉和歌集曰上東門院枇杷太后宮の爲めに佛作らせけるよ保昌丹後守よ侍ければ飾りの玉をめされんと赤染衛門よ仰せ下させけるに

かすならぬ泪の露をかけてたに

和泉式部

玉のかさりを添んとと思ふ

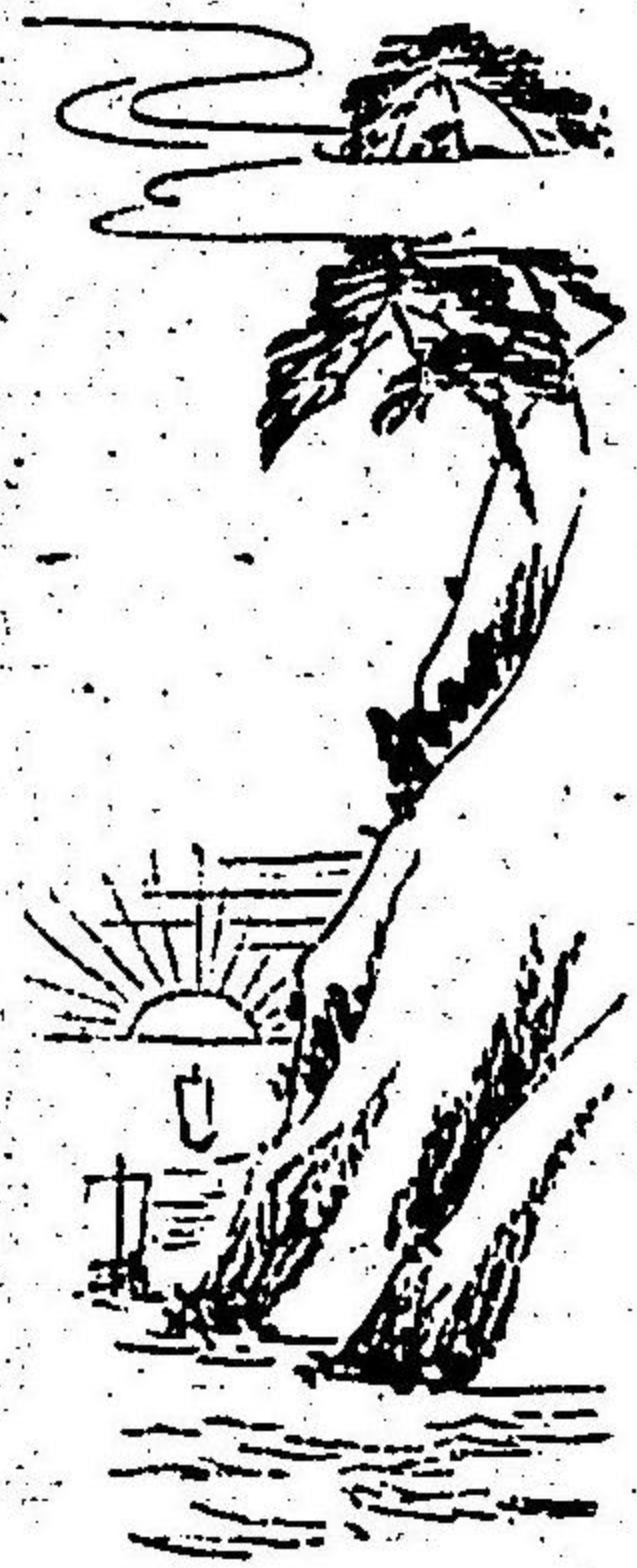
斯くて保昌船を粧ひ都の使衛門を誘ひ橋里志布比の浦よて光よき石を得て門院へ奉りけるを門院悦ひ玉ひ此玉の出たる所を永く御志記濱と名付くべし云々

○木津温泉 竹野郡木津村に在り浴場の設けなきも泉質の諸病よ効驗あるは城の崎

温泉に譲らすと云

○由 良 港 加佐郡の西端に在りて栗田灣よ接す港の東端よ三莊大夫の屋敷跡あり

西端には稻荷の神社ありて境内よ野田笛浦加茂季鷹の碑文あり此港昔時より鹽田の設けありて近年製出の額は多きを加ふと云ふ





宮津ヨリ各地ニ至ル里程及人力車賃錢表

上宮津	一里半	拾參錢五厘	園部町	廿四里半	壹圓九拾錢	出石町	十四里	壹圓拾錢
文珠寺	廿七町	八錢以內	京都	卅五里余	壹圓八拾錢	豐岡町	十三里半	壹圓〇八錢
一ノ宮	二里	拾錢以內				湯嶋	十五里半	壹圓拾錢
栗田村	一里半余	拾錢以內				人力車賃錢		
由良村	入口三里 出口三里半	中央拾四錢 中央拾錢以內	山田村	三里余	貳拾四錢	一通常路 一里ニ付八錢		
大川神社	五里	四拾錢以內	加悦町	四里半	參拾六錢	一與謝郡上宮津村字力石 一里ニ付拾壹錢		
舞鶴	七里	五拾六錢	養老村	四里半	全	一一日雇切 賃錢六拾錢		
松尾寺	十三里	九拾錢以內	岩瀧村	二里半余	貳拾錢	一半日雇切 同參拾五錢		
內宮	普甲峠越 十里半	四里半 八拾四錢	餘部	五里余	四拾錢	一市内十町 同金四錢		
外宮	同 十里	五里半 八拾錢	峰山町	六里半	五拾參錢	但シ以上五町毎ニ金壹錢 ヲ増加シ一里八錢トス		
河守町	九里余	七拾貳錢	網野村	八里半	七拾六錢			
福知山町	十二里半	壹圓以內	間人村	十一里	八拾八錢			
			久美濱	十一里	全			

自宮津至各地海陸里程表

陸	京都	新道 舊道	里町	文珠	〇、三	成相山	三、二	岩瀧	三、
	舞鶴	六、六	大阪	四、〇	松尾山	一〇、六	大阪	五、四	
	福知山	三、〇	由良	三、〇			神戸	五、一	
	久美濱	一〇、九	城ノ崎	三、九	海敦	五、	伊根	八、	
路	網野	七、二	峰山	五、三	小濱	三、	伊根	八、	
					境	一七、	舞鶴	一五、	

宿泊料定價表

一等金壹圓五拾錢	一等金五拾錢	但シ高位高官及
二等金壹圓	二等金參拾五錢	外國人ハ此限ニ
三等金七拾五錢	三等金參拾錢	
四等金五拾錢	四等金貳拾五錢	
五等金參拾五錢	五等金貳拾錢	



旅宿家内大勉強親玉

鳴

宮津萬町東堀川

近江屋事 松島喜平治

宮津魚屋町京街道角

卜

山田屋事 藪岡藤助

宮津魚屋町大道角

定

奥野定七

宮津魚屋町大道角

別荘は犬の堂虎ヶ鼻より

荒木金兵衛

宮津魚屋町西堀川東へ入

北

北野屋事 品川辰藏

旅宿家内大勉強親玉

ふ

筆屋事 西田七左衛門

宮津本町京街道西へ入

三

柏原屋事 三宅伊兵衛

宮津本町京街道西へ入

西

西川善造

宮津本町東堀川西へ入

命

山嘉樓事 山田嘉一

宮津分宮前

金

寶來屋事 寶來儀八

宮津萬町東堀川東へ入



旅宿家案内大勉強親玉

天

宮津魚屋町西堀川

茶谷六治

伊

宮津魚屋町西堀川

伊根屋事 武内廣造

申

宮津白柏町二丁目

中屋事 石間松藏

宮津新濱三番丁

令

松屋事 梅垣長七

宮津新濱三番丁

大

大勝事 吉岡勝藏

橋立路や町終河

觀

榮

堂

明治三十一年八月二十日印刷

明治三十一年八月廿一日發行

發行所 京都府平民

澤田和平

京都府與謝郡宮津町字小川三十四番戸

印刷者 京都府平民

木下勇造

同府同郡同町字同十番戸

大日本三景の一發行所

廣榮堂

同府同郡同町字同廿四番戸

印刷所

廣榮堂印刷部



◎古今無類頗ル精工出版廣告

大日本三景の一

天の橋立の圖

及宮津灣附近名勝古跡

豎二尺

定價

横三尺

全紙美製

金廿錢

大判上袋入

我が天の橋立は日本三景の一として素より其勝景の卓絶なる陸の松島藝の殿島の及はざるこ  
と遠しと雖も其附近に羅列する名勝古跡佳山水の之を助くるなくんば争でか其大觀を全ふす  
ることを得べけんや然り而して世人の多くは天橋の勝景のみを知て是古跡を踏んで古跡たる  
を知らず眼名勝を見て名勝たるを覺らば身佳山水の中は佳山水たるを思はず實は遺域に  
堪へざるなり弊堂茲に見る處ありて本圖を編じ天橋の勝景は言ふも更なり其附近の名勝古跡  
森羅萬象に至るまで載せて又余は昔今回弊堂發刊の橋立みやげと好一對よしして普く粹人逸士  
の勝を求め奇を探らるゝの良侶伴たらんと欲す乞ふ天下の諸君子よ一圖を購ひ以て天橋勝景  
の卓絶なるを賞せらるゝの時案内者となし給へと願ふものは

宮津活版所

出版所 廣 榮 堂



◎清酒釀造家諸君ニ謹告

酒造家必用藥

- 酒類醬油防腐散
- 曇リ早下ヲ妙方
- 曇リ下ヲ蓬萊散
- 臭氣迅取散
- 除
- 辛附酸蓬萊散
- 清酒辛味附水
- 酒類色附

商標 **金解熱汗散**

◎藥價 十日分三十貼入金壹拾錢 二日半分七貼入金拾錢  
 (試用一日分三貼入金五錢)

◎改良煎劑

商標 **金邪病熱發汗散**

◎藥價 五貼入二日半分金拾錢 試用一貼入金貳錢

カゼインフルエンザ 其他 ね 一切の早まじの藥は  
 を博したる改良藥なり論より証據早く御服用して御らん又近頃諸方  
 々蔓延する流行感冒は實に驚べき効あり

丹後宮津町字本町

本舖 人參屋 殿村五兵衛



# 天橋立

附近名所  
古跡勝地

最斬新ナル意匠ニ富ミ能ク天  
橋立ノ優勝ヲ保ツハ本館ノ特  
得ニシテ多年經驗ノ然ラシム  
ル處ナリ

定價カビテ判一葉金拾錢 遺贈用袋入

但水産品評會開會中ハ二割引

宮津東畑川通

山本寫眞館景色部  
第一第二第三分館

臨時出張會場内

山本寫眞館賣店部

## 會席御料理

并ニ辨當折詰仕出し

其他御注文ニ應ズ

宮津町字魚屋



酒見亭

壽しいろいろ

并ニ折詰御好次第

御調進可仕候

宮津本町京街道

東島



二十粒八五錢  
 定價 百十粒八貳拾五錢  
 二百卅粒八五拾錢

● 奇應丸  
 せう ぐわん

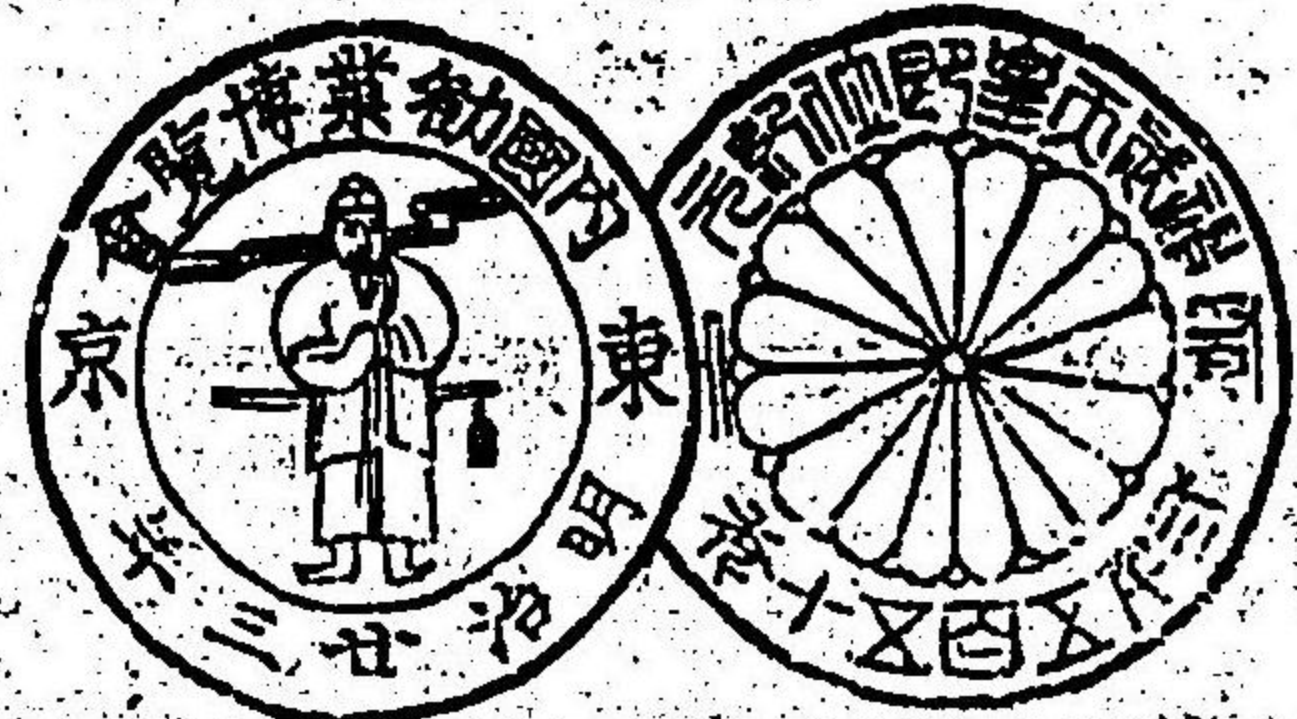
世上奇應丸と稱ふる薬名多しと雖、たいてい、まじり 大率粗製品として、  
 効能を奏するもの甚だ寡なし、然るに、たたく、きざし、る 弊店謹製の奇應丸ハ  
 夙より原薬の精撰し、盡力し調製せるを以て、其奏効の著明  
 なるハ、實驗せし各位の確認せられ、益有効の名譽を博する  
 所なり、殊に極めて小粒と調製せるゆへ、小兒と與ふるに便  
 なり乞ふ未だ實驗せられざる諸君ハ、御試用の上、顯効の虚  
 ならずざるを賞したまへ

〔主治〕 胃弱 食傷 心痛 腹痛 嘔吐 下痢 氣絶  
 癩癩 五疳及小兒の諸患も効あり  
 大人ハ一回より五粒乃至十粒を一日より三回用ゆ  
 小兒ハ常より一粒乃至五粒を年齢に準じ、彈ひ初生見  
 ハ一粒三才ハ二粒三才ハ三粒を白湯又ハ水或  
 ハ乳房より附し用ゆべし  
 但重症の時ハ粒數を増し用ふるを良しとす

〔用法〕  
 本舖鑒製所 三省堂 二井長右衛門  
 丹後宮津本町



各國博覽會  
優等賞牌受領會  
進共會



天橋名產御土進物用種々

●●●●  
袋烏賊  
乾魚  
鹽魚  
女浪魚

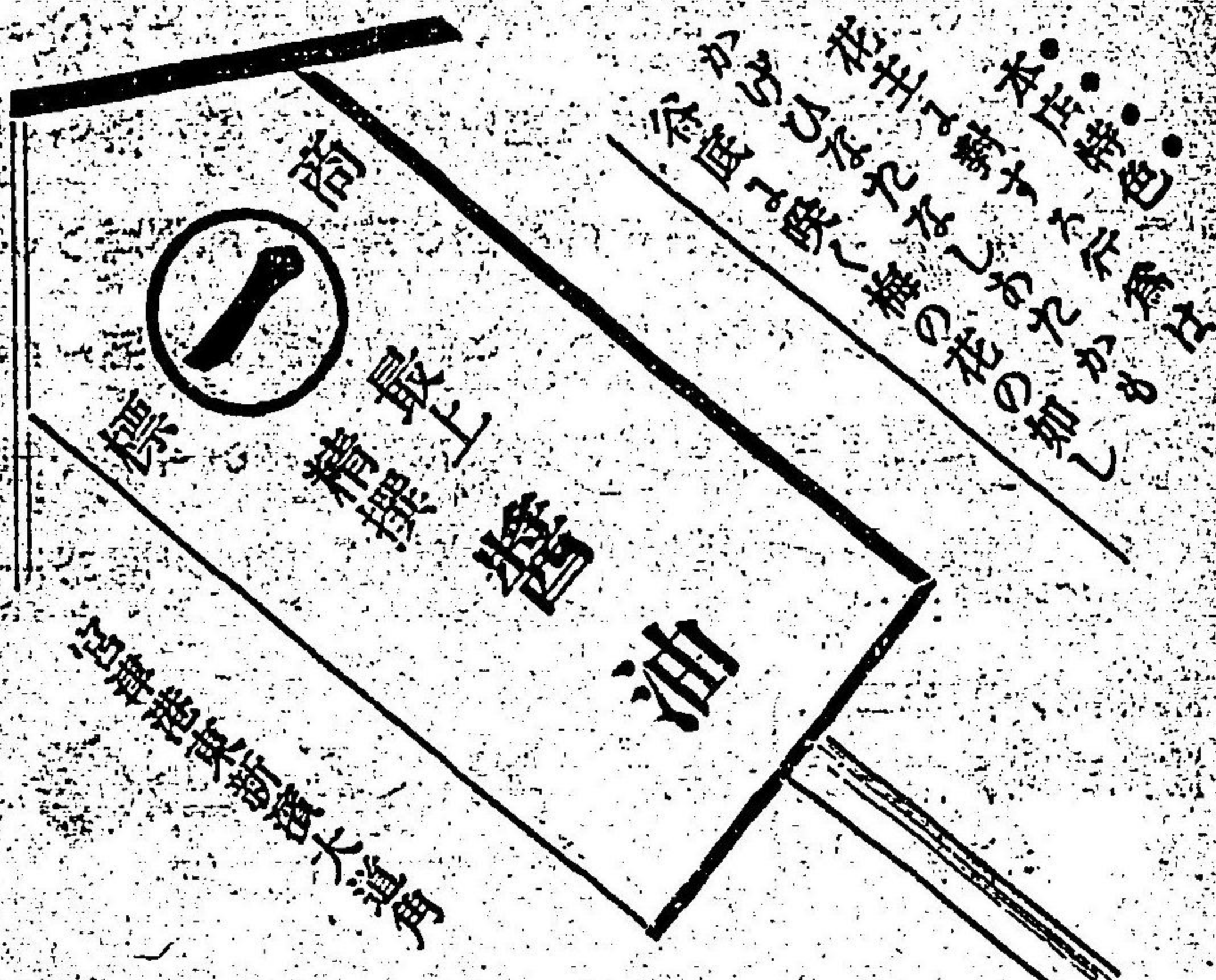
食料罐詰  
瓶詰函詰

右今回第七回大日本水産品評會開設有之候ニ就テハ特別廉價ニ販賣可仕候間多少ニ不拘陸續御購求を乞ふ

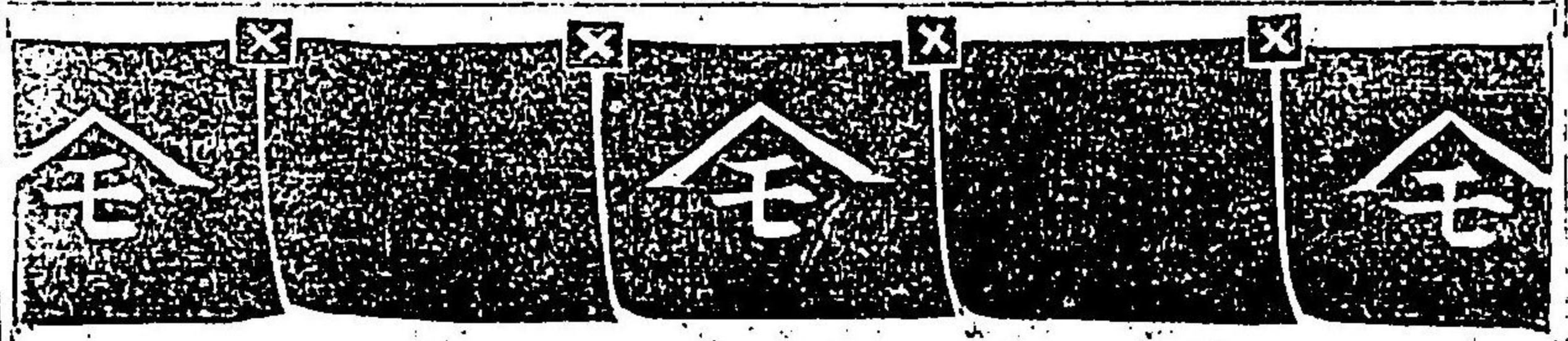
宮津港字本町

山村國藏

製造元 北村連吉







◎洋鋼釘

其他金物さい

内刻卷煙草

大勉強

三上一二三郎

宮津白柏



吳服太物

洋反物

色々

并ニ布さい種々

白地ちりめん紋羽二重  
染地絹紬品々

生糸縮緬取扱所

宮津港白柏



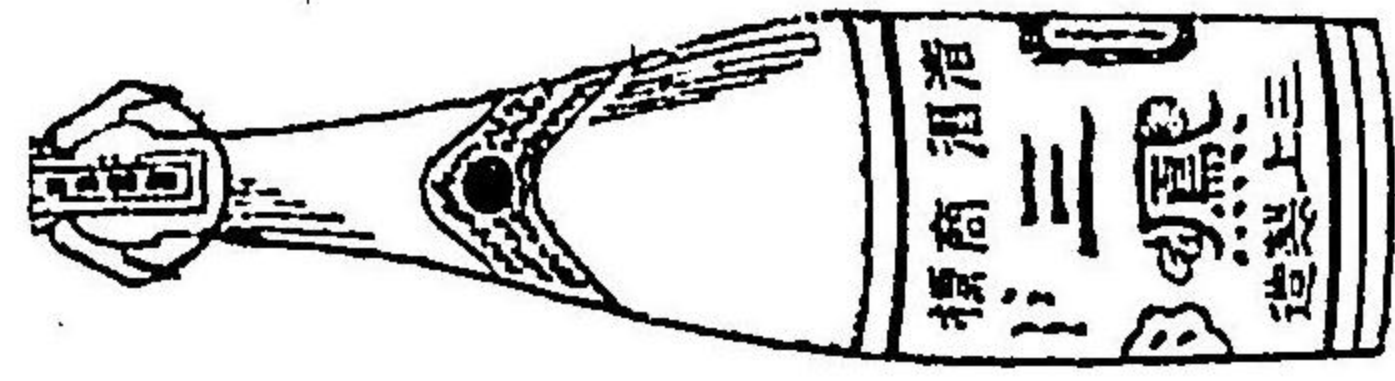
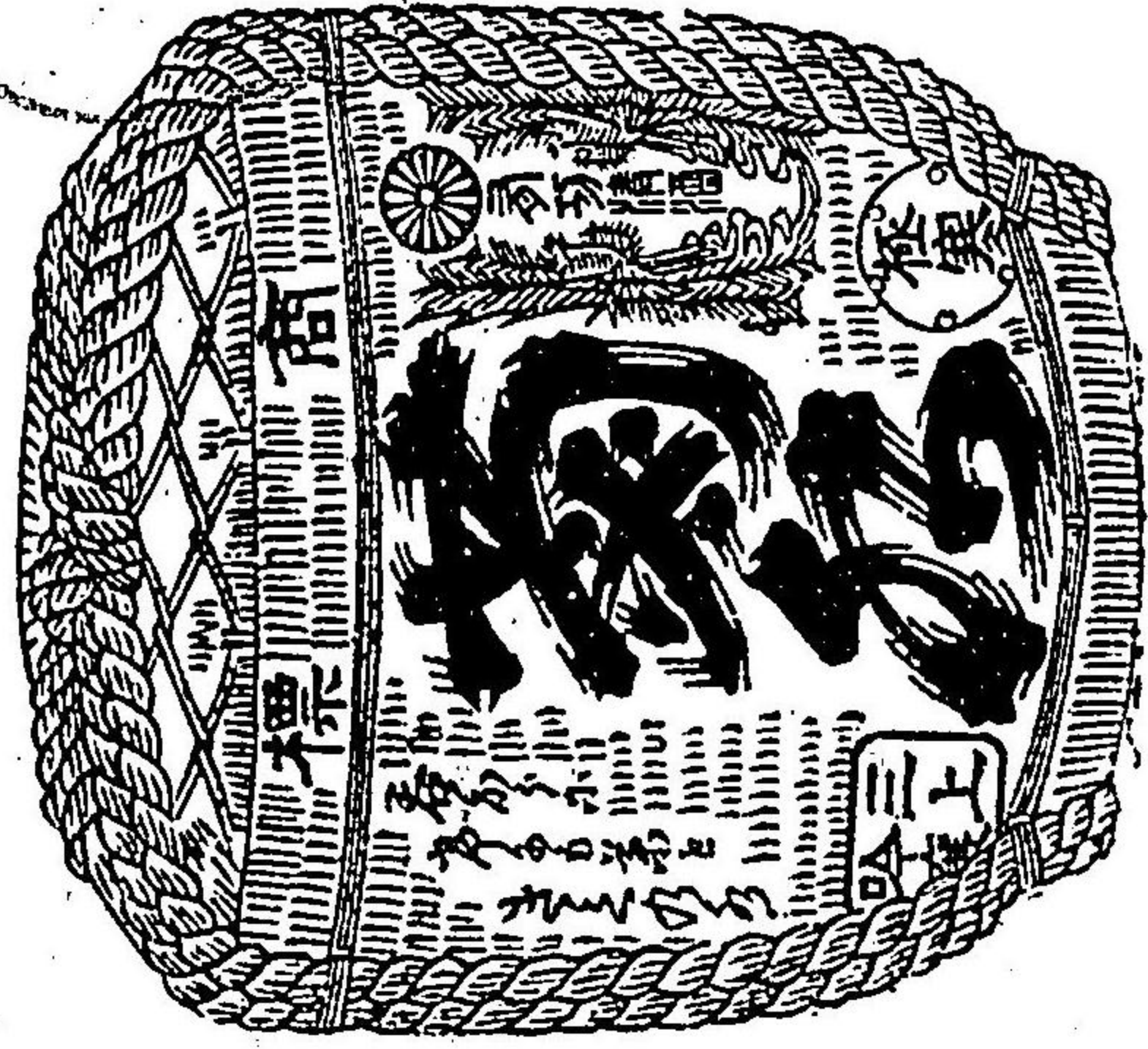
三谷安藏



京都紀念博覽會

賞狀受領

商標



本品は御土産物及旅情を慰むるには至極輕便の佳品なり

●販賣所は到處にあり

丹後宮津港

醸造元 三上本店



株式會社  
宮津銀行

◎資本金拾貳萬五千圓

◎積立金壹萬壹千圓

◎當座預金  
.....  
日步壹錢五厘

◎小口當座預金  
.....  
日步壹錢六厘  
年步五分五厘



和洋書畫  
ペンキ諸看板  
圖案考案

宮津京街道本町南へ入



吾妻商店

内外煙草大販賣

ねろし小賣

和洋雜貨商

宮津港本町

和田太助

銘酒 壽

釀造 大勝利

元 美濃酒

宮津町字白柏

黒田酒店

會席御料理

井ニ 旅館

天橋港



精輝樓

丹後宮津 かん

天橋名産

與謝に志き

天橋みろ類

醬油こうじ製造業

宇治銘茶大販賣

食鹽製造

郵便切手賣下所



岡部甚治

宮津港魚屋町

古着類種々  
井ニ 吳服太物類

丹後宮津本町

赤松民藏

天橋松根絲筆

宮津町字魚屋

牧野文雅堂



◎和鉄

鋼

◎諸金物一切

并諸紙

りうこしるね

令

宮津町白柏

宮城仁祐

廉價廣告

吳服太物

國產縮緬類

令

宮津町白柏

宮城源治





荒水別莊





旅館

和洋御料理

丹後宮津港  
山嘉樓

Handwritten Japanese text in the upper right corner, including characters like 'おはよう' (Good morning) and 'ごきげん' (Good health).

製庄  
○生 蝟  
○正種油

強勉  
大木

丹後與謝郡宮津港

衛兵安達安



# 可

## 船 氣

加賀國金石港

加能氣船株式會社

加能丸

大阪。兵庫。  
馬關。境。

間

每月三回

定期航海

扶桑丸

宮津。金石。

源丸

宮津。賀

間

每日航海

第二加能丸

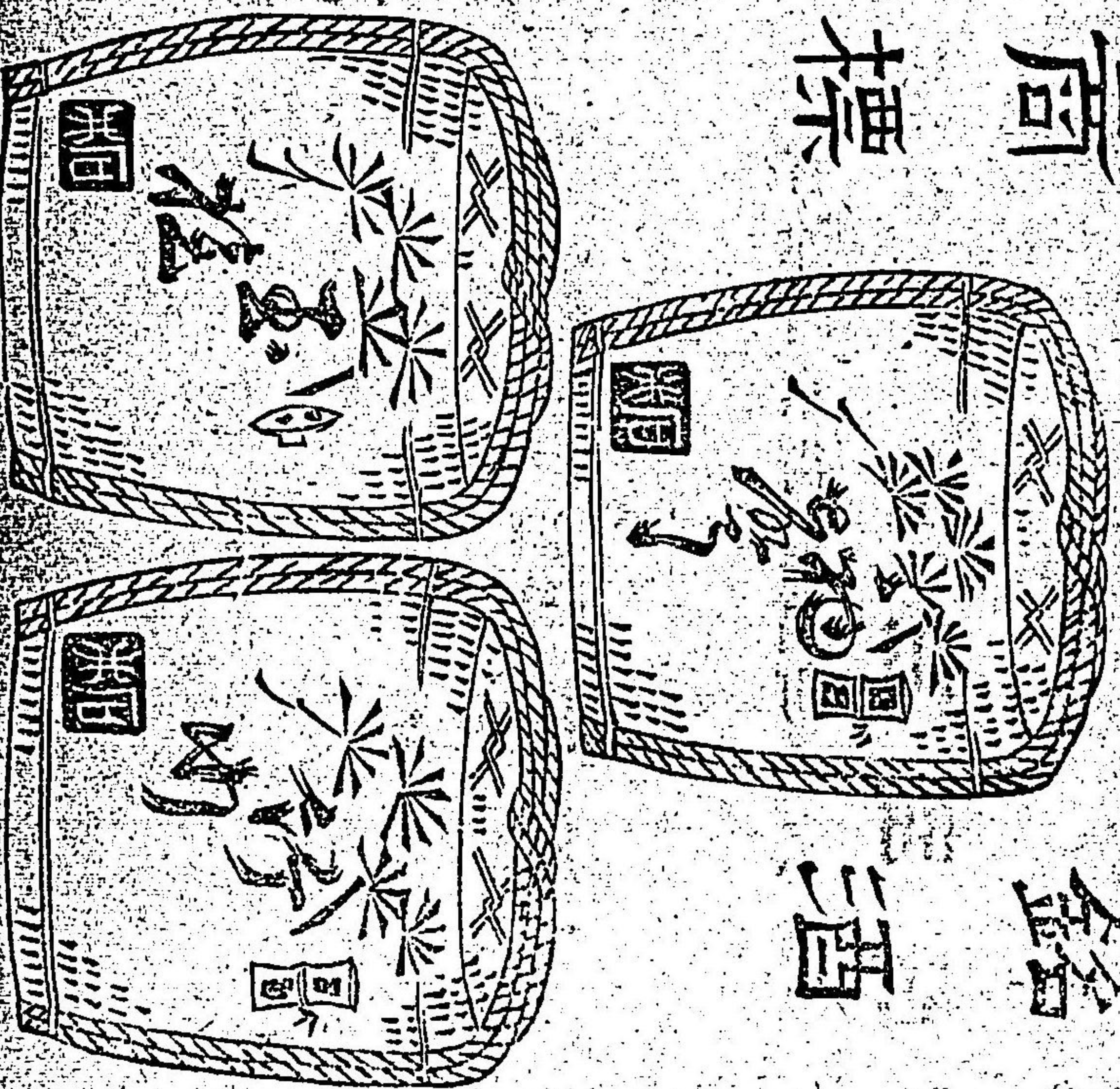
加能氣船敦賀支店

加能氣船宮津代理店

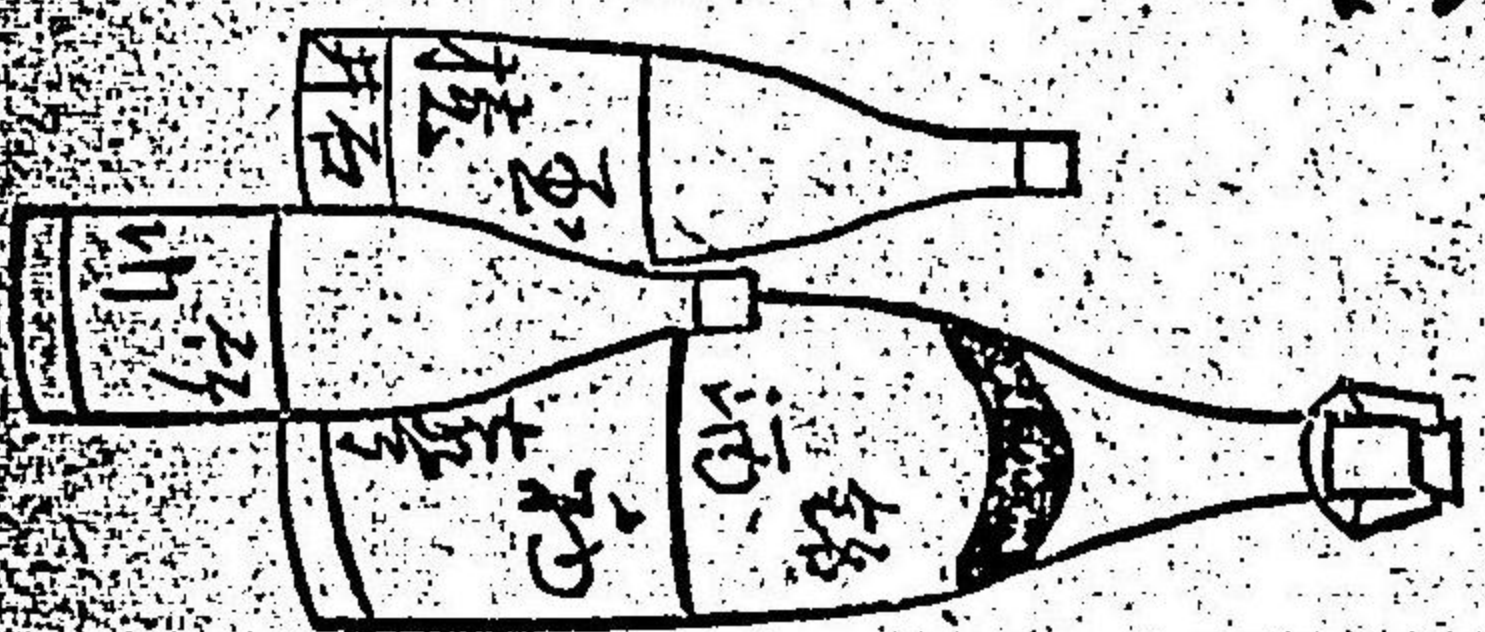


商標

銘酒



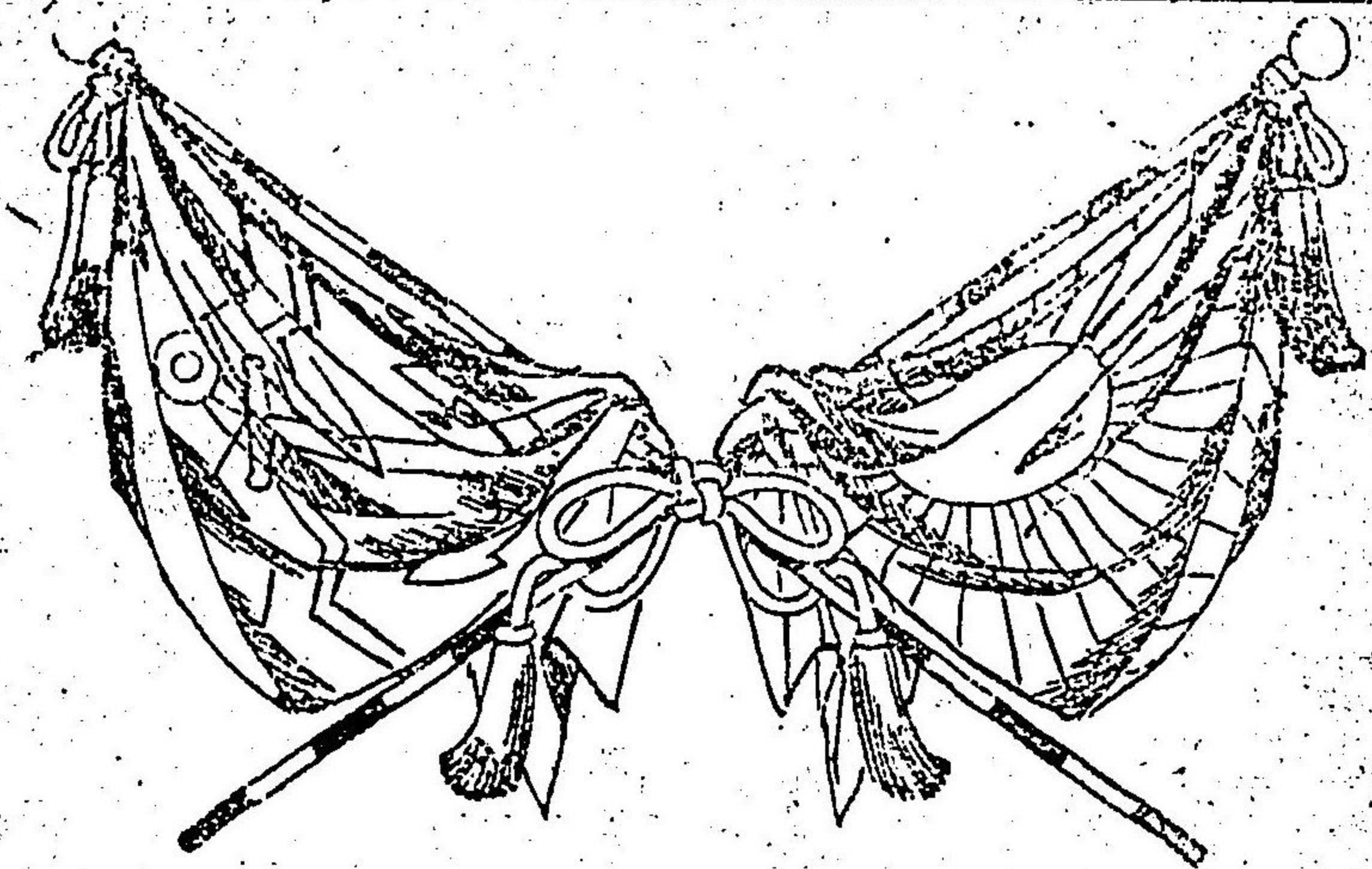
釀造元



丹後宮津港

京屋鋪





大日本及五大州

海軍糧食品御用達

宮津町京街道萬町南入

受負業 山田商店



各國博覽會共進會  
優等賞牌受領會



宮內省御用達用ル榮ヲ受ク

天橋名産御土産  
御進物用品種々

袋烏賊乾魚  
鱈魚鰯類

女浪男浪

食料罐詰

函詰瓶詰

數品

弊店製造ノ水産物各種ハ  
是迄幾多博覽會共進會等  
ニ於テ名譽賞牌ヲ受領シ  
加フルニ宮内省御用品ノ  
榮ヲ賜ル等魚上ノ光榮ヲ  
博スルガ如キ尙本年ハ幸  
ニ當地ニ於テ第七回大日  
本水産品評會開設有之候  
間此際特別廉價ニ販賣可  
仕候

丹後國宮津港本町通

製造賣捌元 前田庄助本店

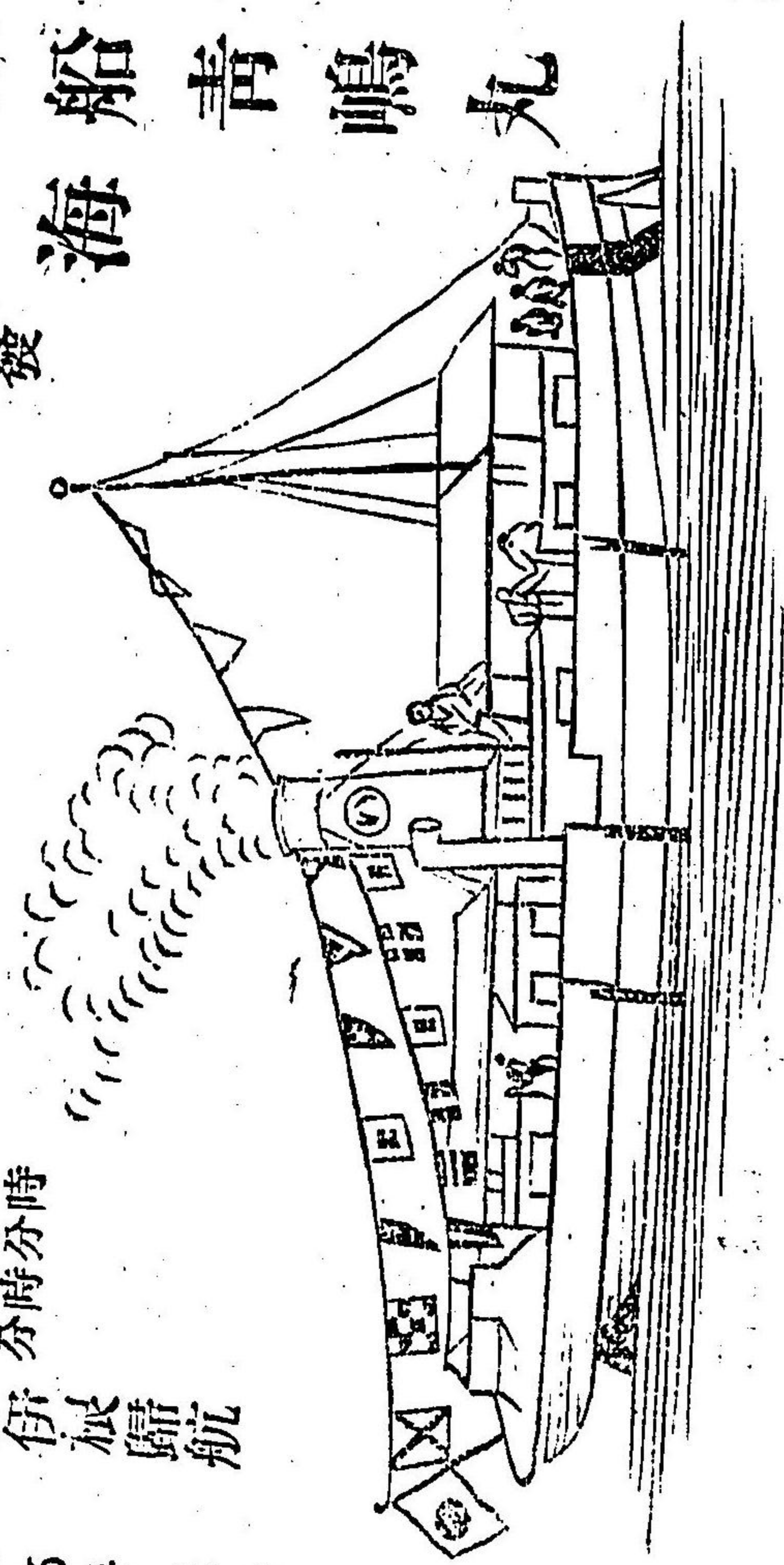
京都四條通大橋西詰南へ入

大販賣 全京都支店

其他賣捌所ハ全國各地ニアリ



丸鳴青船瀛 每日航海



伊根午前五時發

寄 平 田  
港 日 養 老 出 田  
江 尻 置 老 出 田

宮津午前  
七時卅分着

宮津舞鶴間

- 宮津發午前九時
- 舞鶴着午前十二時
- 舞鶴發午后二時
- 宮津着午后三時

午后四時三十分伊根歸航

本社 丹後 與 謝 那 伊 根 港  
全 店 宮 津 町 字 河 原  
支 店 宮 津 支 店 舞 鶴 支 店  
全 加 佐 那 舞 鶴 町 字 魚 屋

丸田屋本家 長尾庄助

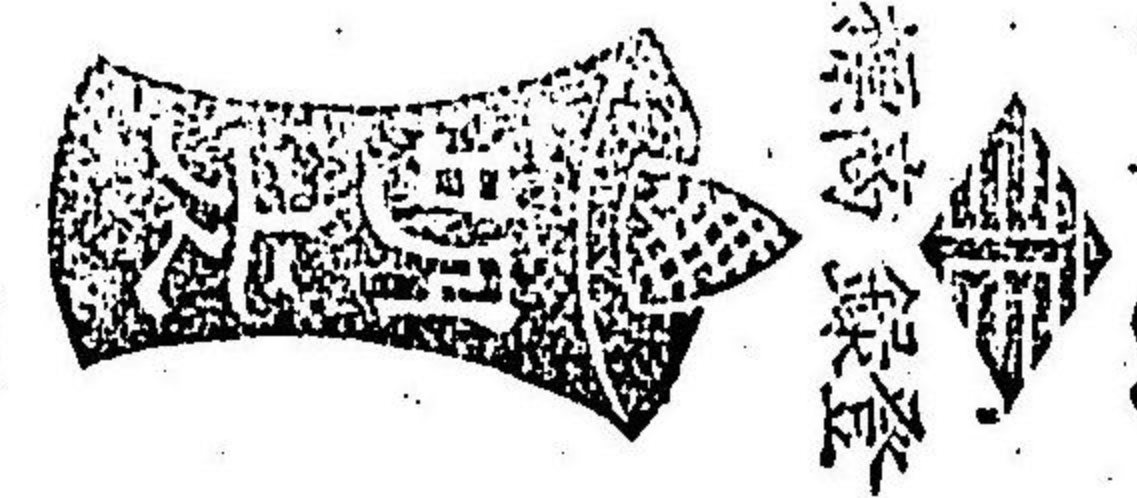
宮津港京街道

下度候  
せらゝ處且又弊店は専ら懇切に取扱可申候間陸續御申込被

- 右三會社の確實堅固として信用あることは天下の士の熟知
- 明治生命保險株式會社
  - 東京海上保險株式會社
  - 日本教育保險株式會社

右特約御望の方は此際至急御申込被下度候  
諸官廳 御用達  
和洋蠟燭各種卸小賣

○主効 明らかよ 光りよくして心ざらま 永くたもちて便利徳用

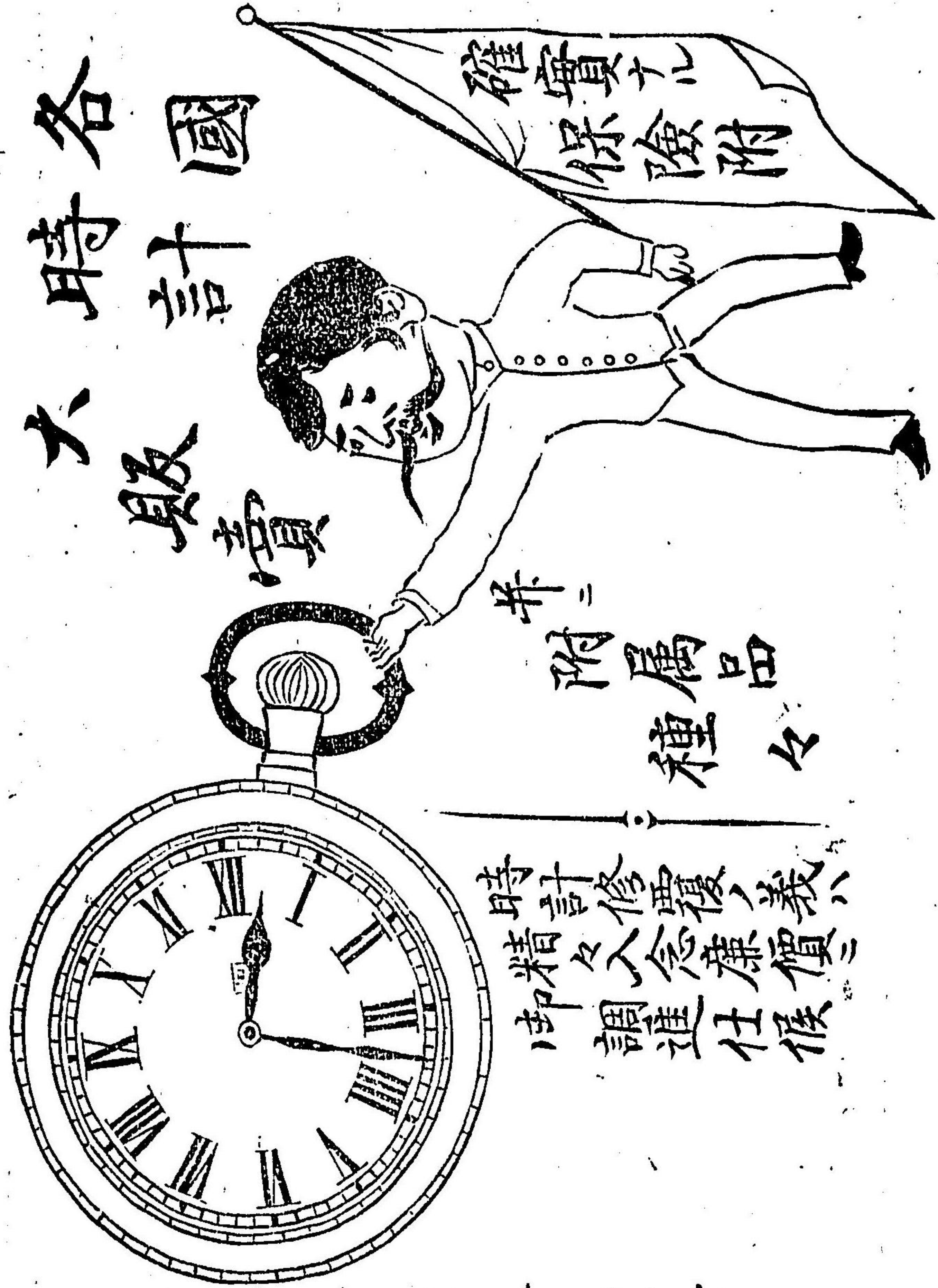


特許 專賣 三丹州一手 製造發賣元  
今般壓搾器械を據付け製造法を改良し精品廉價に差上候間 一層御愛顧の程奉希要候

- 正種油
- 正胡麻油
- 正椿油
- 晒蠟
- 卸小賣
- 生蠟



各國  
計時  
大販



今

丹後宮津港魚丸町

足立精陰堂



油 醬

酢

業 造 釀

屋 袋

郎 三 甚 中 田

港 津 宮

類 表 疊

油 炭 石

賣 販 價 廉 田 約 特 卜 地 產

角 柏 白 港 津 宮

宅 新 中 田





現金  
正札  
附 吳服太物商

掛直なし卸小賣

宮津港龜ヶ丘

吉岡藤治郎

◎海陸物貨運送業

内國通運株式会社

宮津港 海老澤運送店

●藥種各國改良賣藥

●洋酒 香具 染草

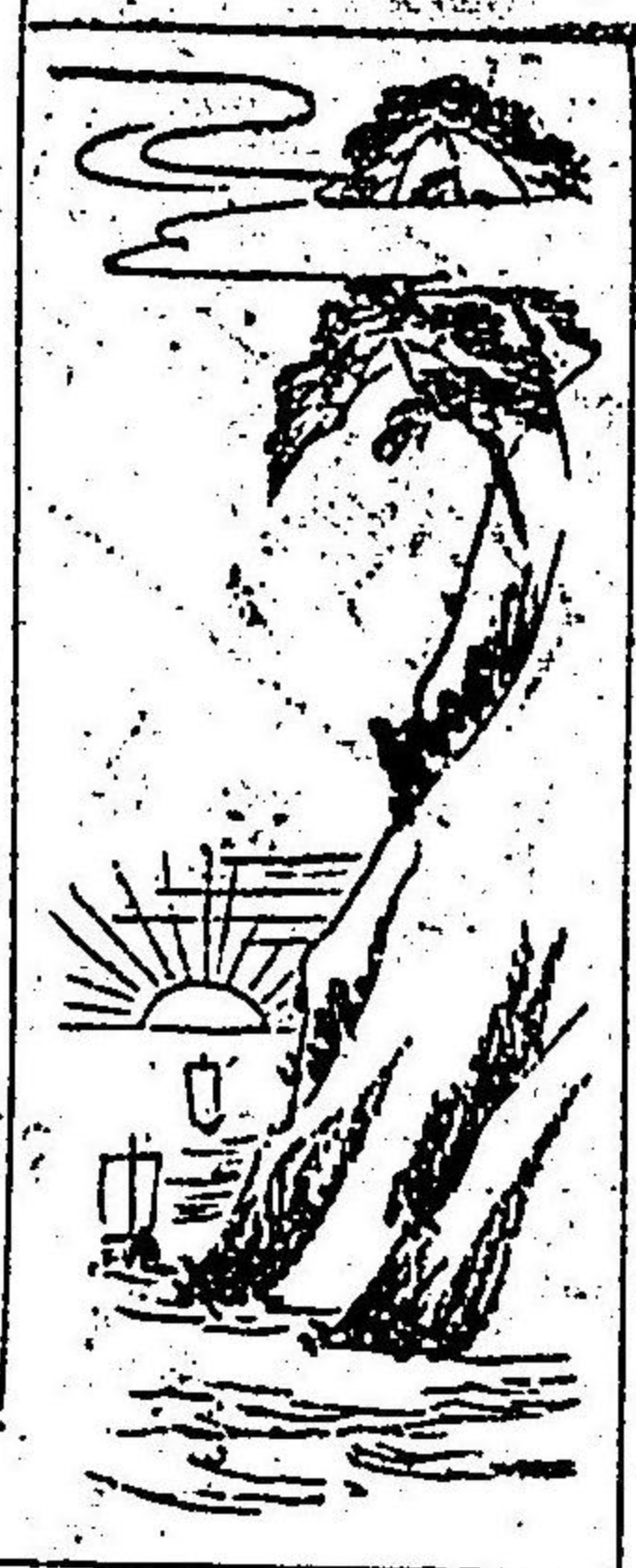
其 他 色 々

丹後宮津港白柏



藥種商

大下廣繁堂



吳服太物商

并ニ

丹後縮緬類

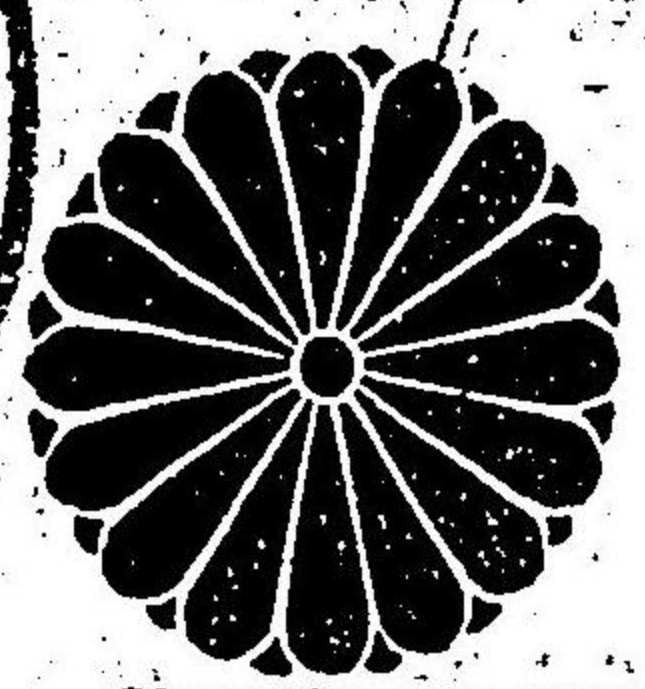
但シ水産品評會開設中ハ特別安價ニ販賣仕候



宮津港魚屋町

吉本與兵衛

各國博覽會共進會優等牌受領



宮津町字魚屋

山村長藏

●袋烏賊

●女浪男浪

●乾 鯛

●乾味鯛

●鯛鹽から

●水 鯛

●烏賊

こうじ漬



吳服太物縮緬各種



右安價 販賣可 仕候間 續々御 用向被 仰付度 候以上

丹後宮津 萬町百四十番 京街 港津 角道

矢野常藏商店

內外煙草問屋

井二 京都村井兄弟商會 山陰道代理店

德用煙草

喜經橋 久濟立 賣捌元

丹波福知山町

桐村組合資會社

丹後宮津港宮本町

同支店

天橋松

- しをり
- 九んさく
- 茶益
- 撫松筆

其他

茶器品々

彫刻製造

宮津町字宮本

清水清吾郎

菓子製造販賣所

飛彈常吉

菓子製造卸專賣所

長崎傳

カステラ

石釜焼種々御好ニ應ズ

丹後 宮津港白柏

商號 小田幸

吉川幸助



可なり



出札

化粧品香水

ワンチカパン

煙箱パイ

袋もの

萬物問小

新式流行

販

小賣

巻貝

内外

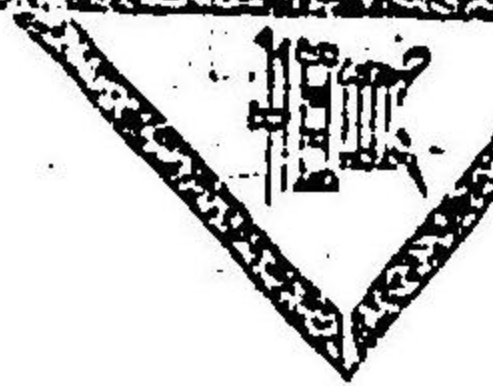
貨

雜

宮津新港

松留店

洋酒各種



品類

特別廉價販賣廣告

白地染地

ちりめん

并ニ紋羽二重絹細色々

呉服太物

洋反物 品々

ねろし小賣

宮津港本町



金澤武兵衛

製圖設計依頼ニ應ズ

建築請負

宮津港

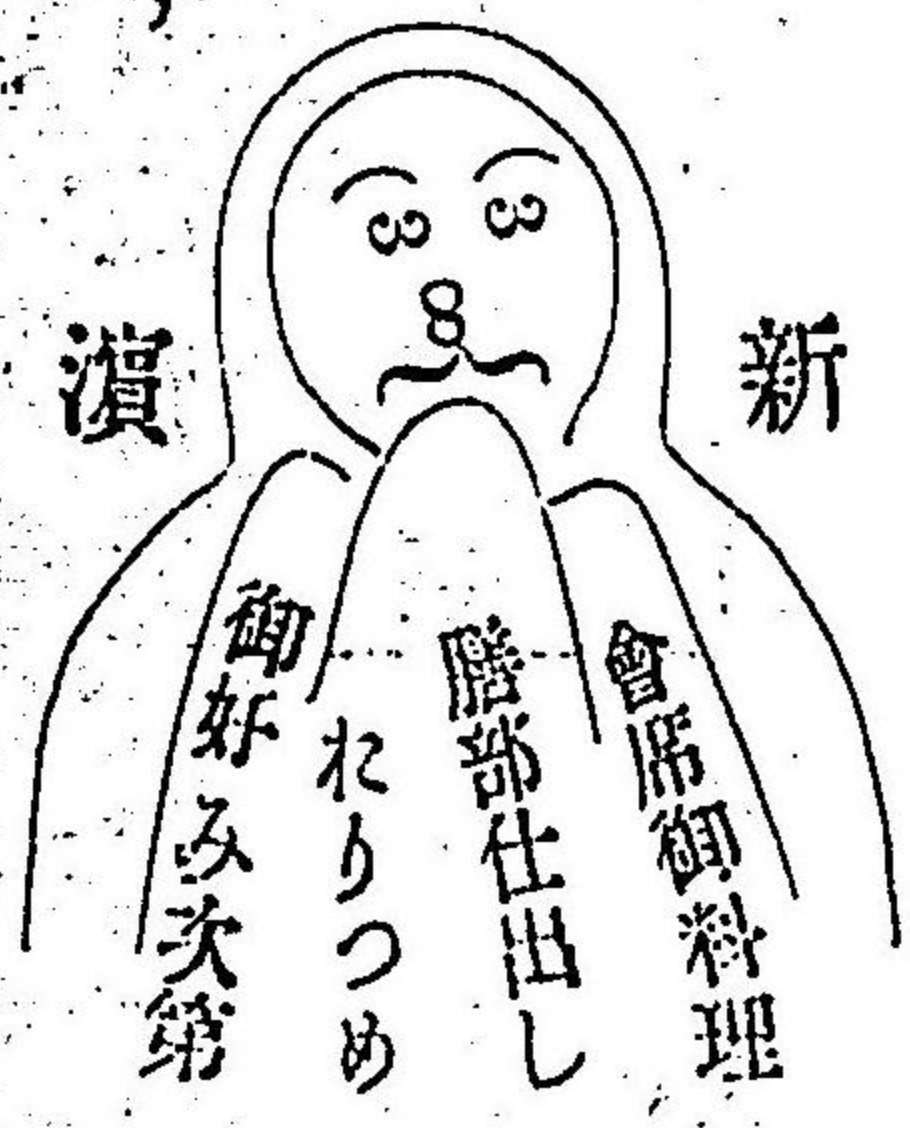
大井組

何時

よても

來需

應ず



演

新

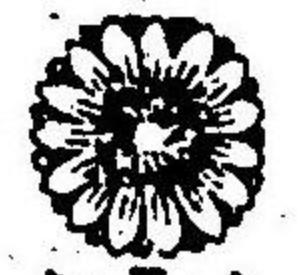
豐福亭





宮津廣榮堂活版部ハ活版石版寫眞版總テ

我國ニ出版スベキ斯業ハ都會ノ同業者ニ劣  
ラズ精工美麗印刷鮮明廉價ニシテ日本海外  
ニ至ル迄貴需ニ應ズ



廣榮堂本店販賣部ハ確實懇切保險大

勉強ノ親玉諸紙。賣藥。書林。硝子板。

學校用品。雜貨。諸新聞。雜誌。

度量衡賣捌所





# 寫真

吾丹後ノ古來名勝色跡ニ富ムハ巳ニ歴史ノ  
傳タル所則チ彼ノ天ノ橋立ノ如キ或ハ大江  
山ノ如キ不語の佳景ハ到成寫真ノ技ヲ藉ラ  
ズンハ何ア未知ノ世人ニ嶮嶮激瀾ヲ與フルヲ得  
ンヤ弊店大ニ茲ニ感シ峻嶮激瀾ヲ與シ爾數百  
種勝景ヲ撮集ス則チ以テ江湖ノ雅客ニ紹介  
セントス請フ丹後ノ奇勝絶景ヲ探ラントモ  
ハ宜敷先ツ弊店ノ寫真ニ藉ラレンコトヲ乞フ

第七回大日本水産品評會開設中祝意ヲ表シ  
テ左記定價ヨリ一割引

定價(景色寫真中判額付金拾貳錢  
普通中判金拾錢 手札形金四錢)

其他特別上等或ハ大小等應貨需  
爲替振宛局ハ宮津郵便電信局

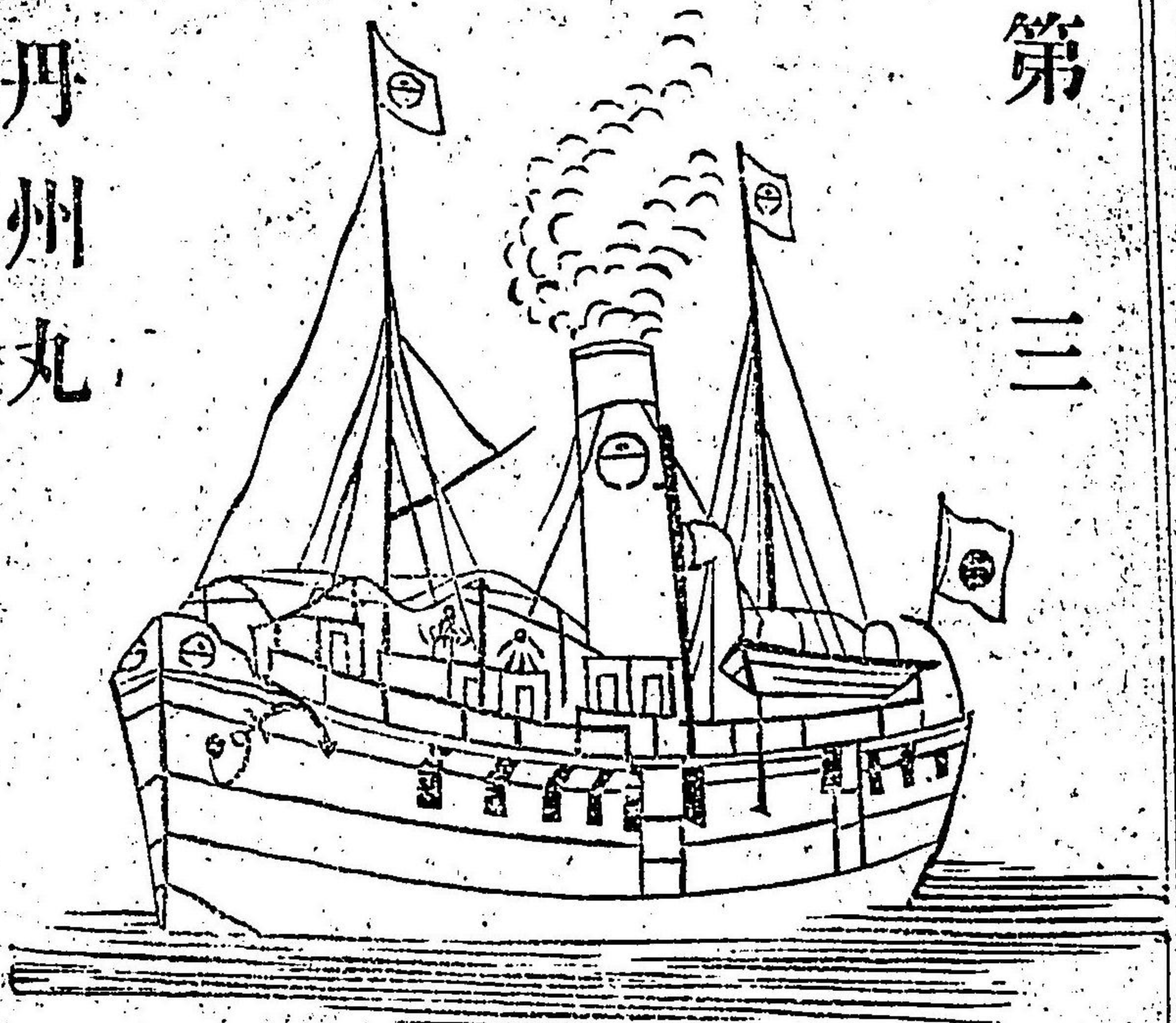
丹後宮津中町通新濱

中川眞輔寫真部



第三

丹州丸



宮津發每丁日 午後六時

敦賀發每半日 午後四時

舞鶴へ定期往復寄港

今回第七回帝國水産品評會當  
宮津ニ開設相成候ニ付テハ割  
引券御持參ノ方へハ賃金ニ割  
減ニ可致候

丹後宮津港

丹州汽船合會社

越前敦賀金ヶ崎

支店丸丹組

舞鶴港代理店

渡邊回漕部



83

40



